Y994-J2610
1200701033757

調第一七二號
昭和十四年八月

○複写

防共協定國國情調査　第十一號

一九三九年四月二十八日國會に於けるヒトラー總統の演說

外務省調査部

Y994-J2610

Y994
J2610



I 種
W

1200701033757

はしがき

一、このヒトラーの演説は一九三九年三月獨逸のボヘミヤ、モラヴィヤ併合直後、ルーズヴェルト大統領よりヒトラー宛に出した平和勸告の電報に對する回答演説である。

一、前半は主としてチェコ解體、ミュンヘン協定、ダンツヒ問題、獨英海軍協定破棄、對波不侵略條約破棄等に關し述べ、後半に至つて二十一ケ條に渉りルーズヴェルト大統領に答へる所がある。

一、此處にヒトラーの言ふ所は演説直後國會議長ゲーリングの挨拶。

「總統よ、貴下はルーズヴェルト大統領の電報に對する回答を示し、以て國會に其の是非を決定せしめんと思ふと言はれた。

總統よ、貴下の爲されし事、及び將來爲されん事は何れも、獨逸國會のみならず、全獨逸國民が衷心より支持するものである。何故ならば吾人にとつて、貴下に對する信賴、貴下に對する信念は無窮永遠であるからである。總統の爲萬歳三唱を唱和せられたし。」

に依つてすべて承認された。

一、本飜譯は防共協定國國情調査の一部として當課眞鍋囑託をして譯出せしめたものである。括弧内はすべて譯者の註である。

昭和十四年八月

調査部第二課

一九三九年四月二十八日國會に於けるヒトラー總統の演說

議員諸君！　國會の諸君！

亞米利加合衆國大統領より余は一通の電報を受取つた。其の特異な內容に就いては諸君既に御承知のことであらう。名宛人の余が此の電文を謁讀する前に、早くも他の國々はラヂオ及び新聞で既に之を知つてゐた。更に此の電報は、金權政治國のなす戰亂を姙む處置を民族主義的國家群に責任を負はせやうと定めて掛つてゐる巧妙老獪なる文書であることを、我々にも亦、世界的な民主主義代表者達の數知れぬ註釋が、御親切にも說明して呉れてゐた。故に余は此處に國會を召集し、獨逸國民の代表者としての諸君に先づ余の回答を知らしめ、且つ其の是非を決定する機會を與へることに決心したのである。

余の唯一の任務

此處に余は大統領ルーズヴェルトの採つた遣り方に從つて、余の方からも亦、吾等の方法手段に依つて全世界に余の回答を知らせるのが、適當であると考へる。

これを別にしても余は此の機會を利用して、本年三月の巨大なる歷史的出來事を見るとき余の心中に湧いてくる感情をも亦表明しようと思ふ。余の衷心よりの感じは、余を召し給ひ、然して嘗ての戰

場の無名の一兵士たりし余を、余の熱愛して止まざる國民の指導者たるに成功せしめ給へる神に對する恭順なる感謝の形に於てのみしか表明出來ない。神は、一滴も血も流さずして吾が民族を悲境のどん底より開放し、然して再び隆盛に至る道を余にお教へ給ふたのだ。神は余の生涯の唯一の任務を遂行すること、卽ち獨逸民族をして其の屈辱から蹶起せしめ、未曾有の恥辱的屈從の桎梏から脫出することを許し給ふたのだ。

と言ふのは、たゞ之のみが余の爲す所全ての目的なのだ。余は政治生活に身を轉じた其の日以來、獨逸國民の自由再獲得、吾が祖國の力と强さの隆興、國內に於ける吾が民族の四分五裂狀態の征服、國外に對する不和離間の除去、獨逸國の經濟的政治的獨立生活の維持に關する國家の保全以外には何も考へずに過して來たのだ。

外國の權利侵略の憶えなし

余はたゞ他方（よそ）のものが嘗て暴力で破壞したものを再び作り上げんとしたに過ぎない、兇惡なる惡意又は人間らしい愚（不理性）が劫掠し、破滅せしめたものを回復せんとしたに過ぎない。故に余は他國の權利を侵害する如きことは一度もしてゐない、たゞ二十年前に侵害せられたる權利を再び樹立したに過ぎない。今日の大獨逸國の範圍內では、古來獨逸國に屬してなかつた地域、獨逸國に結合してなかつた地域、又は獨逸國の宗主權の下になかつた地域は一つもない。亞米利加大陸が未だ白人に發見せられるずつと以前から、又は白人が移住をするずつと以前から、獨逸國は今日の大きさで存在し

た許りでなく、多くの、それ以來失つた地域、地方に迄膀がつて存在してゐたのだ。

二十一年前あの血腥さい戰爭が終りを告げた時、幾百萬の人々の腦髓に斯う言ふ熱い希望が燃えたのだ、卽ち世界戰爭の災禍に襲はれた諸民族に對し、理性と公平に從つて、平和が其の勞を報ゆる所あり、且つ彼等を幸福にするやうには願つたのだ。余は敢て「勞を報ゆる」と言ふ、何故ならば、これ等すべての人々は、——歷史家がどう定め樣とそれは勝手だが、——此の恐るべき出來事に對して何の罪もないのだからだ。

ヴェルサイユ條約の遠因

當時既に此の未曾有の殺戮戰に對して責任ありと言はれてもいゝ樣な政治家が、今日もまだ二三の國々に居るとしても、併し全ての國や民族を代表して戰つた無數の兵士はせいぜい同情さるべきであつて、斷じて罪ありと言ふことは出來ない。余自身も亦、諸君御承知の如く、戰前は何等政治的に進出したことのない者であつた、だからたゞ他の幾百萬の人々と同じく堅氣な一市民、一兵卒として自分に課せられた義務を遂行した丈なのだ。此故にこそ余は大戰中も大戰後も、心に疚しい所なく堂々と、吾が民族の自由と將來を身に引受けることが出來たのだ。故に、たゞ自國民の爲に忠實に義務を果して戰つたものは總て、人類が遂に再び手を取り合つて働いて、共同の損害の回復に步み寄り得る樣にと、理性と公平の平和に對して要求權を持つてゐたのだ、と余は宣言するが、之を余は正に罪なき幾千幾百人の名に於て言ひ得るのである。

併し當時此の數百萬人は騙されて此の平和をフイにしてしまつた、と言ふのは獨逸及び獨逸側に立つて戰つた諸國が平和條約に依つて叩きのめされた許りでなく、該條約は戰勝國側にも壞滅的作用を及ぼしたのであつた。

戰爭に自ら劍を取つて戰はなかつた人々が政策を定めたと言ふ禍は其の頃漸く現はれて來たのだ。何故ならば、憎惡の念などは兵士は知らなかつたのだ、憎惡の念を抱いてゐたのは、戰爭の慘害に捲き込まれぬ樣注意深くも自己の貴重な生命を守つた政治家なのだ、しかもその後復讐の惡鬼の如く狂亂して人類に襲ひかゝつたのも彼等なのだ。憎惡と惡意と理不盡がヴェルサイユ條約を釀し出す精神的（intellektuell）遠因であつたのだ。

千年の歷史を有する生活地域も國家も勝手氣儘に破壞され分割された、古來互に關係深く結び付いてゐた人々はバラバラにされてしまつた、經濟的生活條件は無視された、種々な民族も亦戰勝國と戰敗國、すべての權利を獨占する「主人」と、絕對の「奴隸」に分かたれたのだ。此のヴェルサイユの記錄は幸にも白地に黑（インク）で後世の人々が（其の經緯を）理解出來る樣に書きとめられた。若し（斯う言ふ記錄に）書きとめてないならば、（後世の人は）此の狀態は出鱈目の（道德的に）腐敗墮落した氣紛れから生じた途方もない生れ損ひと斷じるに違ひない。

勝利を得た兵士でなく、氣の狂つた政治家の手に依つて、殆んど一億一千五百萬の人々は其の自決

權を强奪せられ、且つ血液、血統、理性、經濟的條件に何等の顧慮を拂ふこともなく、勝手に舊來の共同社會から離脫させられて、新しい共同社會に屬せしめられた。

其の結果は恐るべきものであつた。當時政治家連は種々のものをぶち壞すことは出來たが、ただ一つの事實丈は、之を削除してしまふことが出來なかつた、——卽ち中歐には限られた地域に押込られた巨大な民族がある、そして之は勞働力を最高度に强化し、從つて其の組織を最高度に强化せねば、其の日其の日のパンを確保して行けぬ民族である、(と言ふ事實は動かし樣もなかつたのだ。)

併し之等所謂民主主義的强國の政治家は此の問題に關して少しでも解つてゐたのか。最も馬鹿な物の解らぬ連中が人類に向けて解き放なたれたのだ。一平方粁に就き凡そ一四〇人が生活して其の糊口を凌がねばならぬ領域に於て、彼等は殆んど二千年の歷史的發展を經て造り上げられた秩序を無造作に破壞し、目茶苦茶な狀態にしてしまつた。其の際彼等は斯う言ふ(獨逸の)人々の共同生活に關して課せられたる問題を解決出來る所か、解決し樣と言ふ意志も持つてゐなかつた、しかも彼等こそ當時の世界新秩序を獨裁するものとして、此の問題解決に對する責任を負つてゐたものではなかつたのか。

併し、此の(彼等の造つた)世界新秩序が後になつて其の結果が破滅的であつたと言ふことが解つた時、此等亞米利加や歐羅巴の民主主義的平和の獨裁者輩は卑怯未練にも、誰一人此の「出來た始末」

に對して責任をとらうと言ふものはなかつた。お互に罪のなすり附け合ひをして、自分丈は（歴史と言ふ）「時」の判決から逃れやうとした。併し、彼等の憎惡と理不盡の爲に虐待された人々は、遺憾乍ら、自分等を害した手合と一緒になつて身の安全を計り得る樣な狀態に達してゐなかつた。

非似平和の結果

吾が民族の苦境の一々を數へ上げることは到底出來ない。植民地領土は全部取られ、すべての金融手段も掠奪され、其の結果は貧乏になるし、其の上所謂賠償の重壓の下に喘ぎ、吾が民族は國家的災禍と言ふ暗黑時代に陷つたのだ。併しよく憶えて置いて頂き度い、それは國民社會主義的獨逸國ではなかつたのだ、民主主義的獨逸國だつたのだ。民主主義的政治家輩の約束を信賴する程、——尤もそれは當時の短い間丈だつたが、——弱腰だつたあの（民主主義的）獨逸國だつたのだ。

これから生じた苦境、打續く困窮の爲（愚かにも藁をも摑む心理で）獨逸民族は政治的に絶望的になり始めた。實直勤勉なる中歐の住民は、呪咀にも等しいと思はれる許りの、全くの秩序崩壞の中に（共產主義等に依つても）救濟の可能性を求め得ると信じた。猶太の寄生虫は無慈悲にも國民から掠奪する一方、悲境のどん底にある民衆を使嗾した。吾が國民の不幸は此の（猶太）民族にとつては自己目的となつたので、それから生じた失業者と言ふ軍隊をボルシェヴィズムの革命に適合する分子に育生して行く事が出來たのである。政治的秩序の崩壞、無責任な猶太系新聞の煽動に依る一般輿論の混亂は、經濟生活を益々不安定にし、其の結果困窮を增大し、ボルシェヴィズムの破壞的思想にかぶれる傾

向を益々強くした。

世に失業者軍と稱せられた猶太世界革命の軍隊は、遂に其の數約七百萬に昇つた。斯う言ふ狀態は獨逸には未曾有のことであつた。(從來は)大獨逸民族及びこれに屬する舊ハプスブルク王朝の生活領域に於ては、領土狹小、人口過剩に制約されて、生存競爭には種々な困難があつたにも拘らず、經濟生活は時と共に不安定になる所か、却つて次第に安定して來てゐた。勤勉精勵、異常なる貯蓄心、更に周到なる秩序を愛する精神のため、此の(狹い)領土内の人民にあり餘る程富を蓄積してやる程までは行かぬとしても、兎に角慘澹たる貧困に陷れない程度にはやつて行けたのだ。

從つて民主主義的獨裁者連に依つて强制された慘めなる平和の結果が、此等ヴェルサイユ條約に虐げられた者に與へたものは、それ丈更に酷いものであつた。今日では吾々は此の世界大戰の恐るべき成行の原因が何であつたかを知つてゐる。第一にそれは戰利品(領土割讓なども含めて)に對する貪欲である。彼等は斯う考へてゐた、即ち個人の生活に殆んど役に立たない(ガラクタの樣な)ものでも、集めて百萬倍にでもすれば、人間生活に有用なものに爲し得るのだと。(だから)彼等は大きな國民から掠奪した、押し出せる丈のものは總て押し出して奪つてしまつた、そして自分等の生活は何もしないでブラブラしてゐても樂にやつて行けると考へた。これが彼等經濟半可通輩の意見だつたのだ。此の目的の爲に、

一、種々の國家は解體しなければならぬ。獨逸の植民地領土は、彼等世界的民主主義國には全然無價値であるにも拘らず、掠奪せられねばならぬ。資源に富む最も重要なる領域には侵略せねばならぬ、そして若し必要ならば、自分等の影響下に置かねばならぬ。そして就中

二、此等民主主義に虐げられた國民や人民と言ふ不幸なる犧牲者達が再び回復すること、又は（壓制者に對して）蜂起することは、斷然妨害せねばならぬ、と言ふのであつた。

斯くて、此の壓制の呪をこれから先の人々（Generationen）にも負はせやうと言ふ兇惡なる計畫が仕組まれた。爾後獨逸國は六十年七十年いや或ひは百年にも渉つて、實際の調達法は全く雲を摑む如きものとしか考へられぬ位の金額を支拂へと言ふことになつた。此の莫大な金額を實際に調達するには、金貨に依るも、外國爲替に依るも、或ひは生産物定期的供與の方法に依るも、不可能である。瞞着された貢納者は滅亡してしまふに定つてゐる。

事實之等民主主義的平和の獨裁者は、其のヴェルサイユの精神錯亂に依つて世界經濟を崩壞させてしまつた。愚鈍にも民族、國家を解體せしめた爲、彼等は數世紀に渉つて發達して來た共同の經濟、金融狀態を破壞してしまひ、其の結果アウタルキーに依る獨立的傾向を益々發達せしめ、延いては從來存在してゐた一般世界經濟の條件を潰滅せしめてしまつたのだ。

二十年前、余が當時のミュンヘンの獨逸勞働黨の第七番目の黨員として黨員簿に署名して政治生活

に入つた時、余は余の周圍に此の凋落の兆が益々現はれて來てゐるのに氣が付いた。最も惡いことは——既に强調した所であるが、——この結果大衆が極度に絶望してしまつた事、敎養ある人々の間に於て人間の理性、又は公正に對する信賴の念が悉く消失した事、同じく亦利己主義な性の者共の畜生の樣な我欲が優勢になつて來た事である。

外交政策的意圖

余が此の二十年間にどの程度まで此の混沌たる瓦解狀態から一國民を形成し、新秩序を作り出したかは、今日となつては既に獨逸史に屬する問題である。今日余が序說として諸君に明かにしたい事は、外交政策に關し余の意圖する所の主旨と、其の實現化に就いてである。

ヴェルサイユ條約の暴壓中最も破廉耻なるものは獨逸國民の解體と、そもそも千年來獨逸人が住居してゐた生活領域を政治的に分解したことである。

議員諸君！　獨逸國會の諸君！　歐羅巴に於ては、何時か國家的又民族的國境に關して、すべてが滿足する樣な一致（した解決）が出來る事は、殆んど不可能であると余は固く信じて疑はない。民族移動が最近數世紀の間に次第に休止狀態になつた爲と、他方大きな共同社會が成立した爲、どんな觀方をしても、當事國には殆んど必ずや滿足とは言へぬ態の狀態が出來上つた。併し此の樣にして民族的な又國家的形成發展が次第に（安定して）落付いた爲に、去る一世紀の間に多くのものは次の樣な希望を抱き、且それを當然であると思つてゐた、卽ち結局は、歐羅巴諸民族の國家的生活を尊

重することと、既に成立した國家的組織を承認すること（卽ち民族自決と當時の國境）との間に妥協が見出される、その妥協に從へば歐羅巴に於ける國家的秩序を破壞することもなく、從つて元來其の國家に與へられた經濟的基礎を破壞することもなく、民族體を維持して行くことは出來るであらうと言ふ希望であつた。

此等の希望を世界大戰は烏有にしてしまつた。ヴェルサイユの平和強制條約は此の孰れのプリンシプルにも沿ふものでもなかつた。民族自決權は無視されたし、又歐羅巴發展の爲の國家的、いや經濟的必然性、又は經濟的條件までも考慮されなかつたのだ。

併しそれにも拘らず余は、既に強調せる如くヴェルサイユ條約の修正はある限度まで達し得られると信じて疑はなかつた。余は之を常に率直に明ら樣に言つて來た、それも損得の駈引を考へる所ある故でない、衷心よりの確信に基いて言つて來たのだ。

故に余は獨逸民族の國家的指導者として斯く確信するものである、卽ち歐羅巴の共同生活にとつてより高度の利益が齎らされる所では、何處でも個々の國家的利害關係は、若し必要とあれば、一歩を讓るべきであると。併しこれも上に力說せる如く、（自國の損得の）駈引を考へての謂ではない、余は斷じて迷はぬ、余の見解は絕對に眞面目なのである。此の根據から、余は抗爭の的となり得る地域全般に對し最後的裁決を下したのだ、そしてそれを內外に宣し、以て內外の承認を得たのだ。

余は、一八七〇―七一年の佛蘭西の如く、アルサス・ローレンの割讓を以て永久に耐へ得ざる態のものとは考へなかつた、然らずして余はザール地方と嘗ての獨領アルサス・ローレンとは別箇のものと見たのである。余は此の見解を變へたこともなく、又今後も變へることはない。又余は獨逸國内に於て、言論に依るも又は他の方法に依るも、余の此の見解が一度でも無視されたり、とやかく問題にされたりするを許したこともない。

ザール復歸に依つて歐羅巴に於ける獨佛間の全領土問題は解決したのである。

併し佛蘭西の政治家が、此の態度を以て當然極りなしと見てゐたことに對し、余は常に遺憾に思つてゐた。それは物事の見方が間違つてゐると言ふものだ、余が斯う言ふ所見を披歷したのは、決して佛蘭西が恐いからではない。余も嘗ては兵士であつた、そんな事を恐れる譯はない。更にザール地方に關しては、之を獨逸に返還せぬと言へば（國民が）默つてゐる筈はないことは明瞭である。余が佛蘭西に對して斯う言ふ態度を固めたのは、歐羅巴には何とかして平和が來なければならぬと言ふ必要性の認識から出た表現であつて、無制限な要求を提出し、或ひは絶えず（ヴェルサイユ條約等の）修正を求めて、（歐羅巴に）永遠の不安定又は緊張狀態を釀し出さんが爲ではないのである。併しそれにも拘らず若し緊張狀態が生じるならば、これは獨逸に責任のないものである、然らずして、斯かる緊張狀態を計畫的に招き起し、以て自らの資本主義的利益に役立てようと言ふ國際的（不良）分子に責

任があるのだ。

余は多くの國々に宣言を發し、自ら（不侵略に對する）義務を負ふたのである。これ等諸國は何れも、獨逸が此の宣言に反する要求がましきものを一度でも爲したなどと言ふ苦情を言ふ筋はない筈だ。又例へば北歐諸國の政治家も、獨逸政府より或は獨逸一般輿論などの形で、これ等諸國の宗主權と保全に反する樣な無理な要求が爲されたことありと主張する權利もない。

余は歐羅巴の多くの國々が獨逸政府の此の宣言に適應して、自らも絕對中立の意志を表明し强調してゐることに對し、誠に欣快に感じる次第である。これは和蘭、白耳義、瑞西、丁抹等に關し言へることである。佛蘭西に就いては既に述べた。吾等と深い緊密な友好關係にある伊太利に關しては言ふまでもあるまい。或は隣國として其の誼み淺からぬ洪牙利、ユーゴースラヴィヤに關しても述ぶるまでもない。

他方、余の政治活動の最初より余が明言して置いたことがある、卽ち、卑劣、無法にも、吾人が到底受理し、且是認し得ざる程に、吾が民族の自決權を侵害する如き、（上述の如きとは）又別な（敵視）狀態が存在したのだと。余は未だ曾て上述の諸國家に對して（上に述べたのとは）異つた態度を一行も筆にしたこともなく、又唯の一度も演說に於て言つたこともない。又他の場合に於ても、余は余が實際上に示した行動に反する樣な事も一行も書いたこともなく、又一言も言つたこともない。

一、墺太利、獨逸民族の最古のオストマルク（註、獨逸東部邊境地方、墺太利の意に用ふることが多い。）は嘗ては獨逸國東南部に對する獨逸國民の防禦地域であつた。此の地方の獨逸人は、其の大部分が（バヴァリヤ人の祖、西ゲルマンに屬する）バユヴァーレ族ではあるが、（兎に角）凡ゆる獨逸種族の移民から成立してゐる。後に此のオストマルクは（ハプスブルク）王朝の統下に屬し、獨逸帝國として五世紀も續き、從つてヴィーンは當時の獨逸國の首府であつたのだ。此の獨逸帝國は次第に崩壞の道を辿り、コルシカ人ナポレオンの手に依つて遂に粉碎された。併し其の後も獨逸聯邦として存在し、そして最近は未曾有の大戰に際して國家的には（獨逸一國として）統一されたものではなかつたが民族的には明かに一元的に統一されて、共に戰ひ、共に苦杯を嘗めたのである。余自身も亦此のオストマルクの兒なのだ。

ヴェルサイユの「犯罪」に依つて獨逸國は破壞せられ、墺太利は解體せられたのみか、千年以上にも渉つて獨逸人が屬してゐた其の共同社會を認めることすら吾等に禁じられたのだ。此の狀態を排除する事をもつて、余は余の最高にして、最も神聖なる生涯の任務と常に考へてゐた。此の意志を布告することを、余は一度も思ひ止つたこともない。且、日夜余に附纏つて離れぬ此の考を必ず實現しようと常に決心してゐたのだ。余は神に召されて、余の祖國とオストマルクの獨逸民族をば、獨逸國即ち獨逸民族の共同社會に再び結合させたが、若し此の努力に失敗してゐたならば、余は神の命に背き

瀆神の罪を犯したことになるのだ。

余は之に依つて更にヴェルサイユ條約の破廉耻な一面を拭ひ去つた。卽ち余は七百五十萬の獨逸人の爲に自決權を再び樹立した。余は此の七百五十萬人より民主主義的暴壓を除去した。余は自國の運命のために「投票」するを禁ずる束縛を絶ち、此の「投票」を（世界）歷史の面前で行つた。其の結果はたゞに余が期待してゐた通りであつた許りか、ヴェルサイユの民主主義的暴壓者輩が同じく豫測してゐた通りになつた。と言ふのは（此の結果を豫想してゐないなら、）彼等は合邦の人民投票を禁ずるわけは無かつたに違ひないのだ。

二、ボヘミヤ及びモラヴィア、民族大移動時代に、原因は不明であるが、獨逸種族が今日のボヘミヤ、モラヴィヤ地方から移動し始めた時、他民族のスラヴ民族が此の地方に入り込んで來て、同地方に殘留してゐる獨逸人の間に根を下した。それ以來此のスラヴ民族の生活區域は獨逸民族に依つて馬蹄型に取り圍まれた。經濟的觀點から見れば、之等地方の獨立的存在は、結局は獨逸民族と其の經濟とに關係なしには考へ得られないものである。

ボヘミヤ及びモラヴィヤ

之と離して考へても此のボヘミヤ、モラヴィヤ地方には殆んど四百萬許りの獨逸人が住んでゐる。ヴェルサイユ條約以來、チェコ人の（少數民族）壓迫政策の下に、特に尖銳化した（他）民族絶滅政策の爲、一部は又經濟的條件と困窮の增加のため、（當地の）獨逸分子は國外移住を餘儀なくされ、殘存

獨逸人の數は約三百七十萬に減少した。國境地方は一樣に獨逸人が住居してゐるが、內部の方にも亦獨逸語の語られる小區域が澤山散在してゐる。チェコ民族は其の起源から言へば吾人には關係薄いものである。併し十年にも渉る共同生活の結果其の文化は本質的に獨逸の影響下に形成され育成されたのだ。其の經濟も大獨逸經濟組織の一部を爲してゐる故に存續し得たのだ。此の國の首府はある時は獨逸帝國の首都（Kaiserstadt）であつて、獨逸最古の大學も當市にある。夥多のドーム、市・區役所、公私の宏壯なる建築物等は獨逸文化の影響を物語る證人である。チェコ民族自身數世紀に渉つて對獨逸民族關係をある時は緊密にし、ある時は疎遠にしてゐた、然して緊密度が增した時は獨逸、チェコ兩民族の隆盛を招來し、疎遠になつた時は、何時でもカタストローフがやつて來た。（と言ふ狀態であつた。）

一九一八年以後のチェッコの役割

獨逸民族の長所と價値は吾人に明かなる所である。併しチェコ民族と雖も、全體として見れば其の熟練、能力、精勵、勤勉、又自己の故郷の土に對する愛、又自分の民族に對する愛に於ては、やはり吾人の尊敬に價するものである。實際又其の國民性に對する相互の尊敬が當然の事實であつた時代もあつたのだ。併し此のチェコ民族に、獨逸に反抗する傀儡（的國家）としての特別な役割を振り當てたのは、ヴェルサイユの民主主義的平和製造者達が自ら要求し得る功績なのだ。

此の目的の爲に、自民族の要素丈では全く一本立の出來ないチェコ國家に、自分勝手に他の民族の

要素を附與する（そしてこれをつき混ぜて、一國を爲す）樣に定めた、と言ふことは、斯うして中歐に於ける獨逸國民に、（一國家と言ふ形で）國家的に潛在的脅威を與へる基礎をかためるために、（チェコ以外の）他の諸民族にも暴行を加へたに等しいのだ、と言ふのは、此の國では所謂「國家の中樞をなす民族」は少數民族であるのだから、該國家は人口の大部分を占めてゐる民族を非道にも迫害しなければ存續して行くことが出來なかつたのである。所が此の迫害も歐洲の民主主義諸國が保護と後押しを許し與へなければ、不可能だつたのだ、更に又此の後押しも、チェコが其の誕生に際して押付けられた役割を忠實に引受け、遂行して行く用意がなかつたなら、當然期待出來ないものだつたのだ。

其の役割とは勿論、中歐の統一的強化を妨害すること、歐羅巴に對するボルシェヴィズムの侵入に橋渡しをすること、就中獨逸を敵とする西歐民主主義諸國の「傭兵」たることに他ならなかつた。これ以外のことは（上の役割さへ果せば）自然に出て來る。

チェコが此の任務を遂行しようとすればする程、少數民族の反抗は大きくなつた。此の反抗が大きくなればなる程、益々壓迫を加へねばならなかつた。此の國內相剋矛盾の避け難い硬化のため、更に西歐民主主義的「國家創設者」や「保護者」にそれ丈賴らねばならなくなつた。と言ふのは、結局此の不自然な人爲的國家の存在を經濟的に維持して行くのは、彼等（民主主義諸國）を措いて他になかつたからである。

扨て最初獨逸國は根本として唯一つの主張（Interesse）しか持つてゐなかつた。卽ち此の（チェコ）國內の約四百萬の獨逸人を其の耐へ得べからざる境遇から救ひ出し、祖國への復歸、卽ち千年の歷史を有する獨逸國への復歸を可能ならしめてやること之であつた。

此の問題は直ちに他の全ての少數民族問題にまで展開したが、それは當然のことであつた。併し總ての（少數）民族を引拔いて了へば、殘つた國家は全く存在の可能性が無くなつてしまふに至ることも當然であつた。これはヴェルサイユの「國家製造者」にとつても亦自明の事實だつたのだ。何故ならば、この事が解つてゐたからこそ、彼等は其他の少數民族に對する暴行を決議し、其の少數民族を其の意志に反して、無理に此の素人の作つた國家に押込んでしまつたのだ。

余は、此の余の見解と態度に關してはただの一度も疑つたことはない。獨逸國が無力、無軍備なりし限りは、此の約四百萬の獨逸人に對する暴行も、事實上獨逸の反抗も受けることなく、成し得たのだ、それに間違ひはない。併し獨逸國民が永遠に一九一九年當時の狀態から脫し得ないだらうと考へたものがあれば、それは政治に就いては赤ん坊だ。唯、外國の支持を受けた國際的賣國奴が獨逸國統治を手中に握つてゐた間は、此の屈辱的狀態は辛棒強く甘受されてゐると見て差支へなかつた。併し國民社會主義の勝利以來、此の賣國奴等が、其の補助金を貰つてゐた諸國に宿替へせざるを得なくなつた時から、此の問題の解決は唯時の問題となつた。

更に此の際問題となるのは、全然之に關係ある國々丈の問題であつて、西歐羅巴（全體）の問題ではないと言ふことだ。西歐羅巴（諸國）が自分の利益の爲に人爲的國家に關心を持つのは、勿論理解出來る所だ。併し此の國の取卷き連が、自分等にとつても決定的の利害關係ありと見るとしたならば、——ある國々にとつては或ひは「遺憾なこと」かも知れぬが、——それは妄斷である。此の利害關係が此の國家の經濟的基礎に向けられてゐたと言ふ點に就いても、若し經濟的利害關係が結局の所はやはり唯民主主義的諸國の勢力伸展政策のみを目的としてゐるものでなかつたならば、獨逸側からは何も別に異存はなかつたのだ。

更に此のチェコ國家に於ける經濟的發展はある重要な指針をもつてゐた、卽ち軍事的に高度の設備を有する國を造り上げることこれである。しかも其の任務たるや、獨逸國内にまで喰込んだ稜堡を築くにあるのだ、これは獨逸國に西部から侵入する際に、これに聯絡した軍事行動の出發點ともなるし、又は空軍基地ともなる、何れにせよ疑ふべからざる重要なる價値を有するものと言はねばならぬ。此の國より（民主主義諸國が）何を期待してゐたかは、佛蘭西の航空大臣ピュール・コットの言說に依つて明確に示されてゐる、卽ちコットは臆面もなく斯う言つた、此の國の任務は有事の際の空軍爆擊據點たるにある、此處よりすれば獨逸の重要工業中心地帶は數時間を出でずして擊滅することが出來るのだと。故に獨逸政府側も同じく、此の爆擊根據地を破壞して了はうと決心したのも無理ではな

い。

獨逸が此の決心をしたのは、決してチェコ民族に對する憎惡から出たのではない。寧ろ其の反對である。何故ならば、千年餘も共同生活をしてゐる間に、獨致兩民族が數世紀に渉つて緊密な協働を爲したことは屢々ある、併し其の間に（兩民族の關係が）緊張狀態にあつたのはほんの短期間に過ぎなかつたのだ。

斯う言ふ緊張狀態にある時には、民族的地位を代表して（言はば）最前線の塹壕で鬪つてゐる人々の感情が、えて（國民の）正義感を鈍らせ、かくて全體としての判斷を誤まらせてしまふことがある。これは何れの戰爭に於ても見られる特徵である。併し相互理解の下に共同生活を營んでゐた長期間に於ては、兩民族ともお互に其の民族性を尊敬し且つ尊重すべき神聖な要求權を主張し得ると言ふ點で常に一致を見てゐたのである。

余自身も亦最近數年の紛爭中、チェコ民族に對する態度は、單に一方的な民族及國家の利益保護者としてのみならず、チェコ民族を尊敬するものとしての態度は失はなかつた。確實なることが一つある、卽ち民主主義的な、（チェコ）國家「取上げ婆さん」達が、其の究極目的を達し得たとしても、獨逸國は、損害は蒙むるかも知れないが、斷じて滅びることはなかつただらう。逆に、チェコ民族こそ、其の大さと地位に災されて、恐らくは慘澹たる、いや余の確信によれば、破滅的な結果に立ち至らざる

を得なかつたに違ひない。利害を同じうする民主主義諸國には迷惑極りなかつたかも知れないが、獨逸國の節度（を知つた出方）と、チェコ民族の洞察に依つて、此の中歐のカタストローフを避け得たのは誠に幸福であつたと思ふ。

チェコ人中最も優れた、最も洞察のあるものが數世紀に渉り獲得しようと努力して來たもの、卽ち自民族の權利、此の民族育成に對する權利、又此の民族隆興に對する權利は何れも、國民社會主義獨逸國内に於ては始めから彼等に許し與へられてゐるのである。

國民社會主義獨逸國は、吾人の誇である人種に關する原理を否定しようと言ふ意志はない。この原理は獨逸國民のみならず、チェコ民族にとつても利益あるものなのだ。吾人が要求するのは歷史的必然性の尊重及び吾等が嘗現在陷つてゐる經濟的逼迫狀態の承認である。

一九三八年二月二十二日國會に於て余は此の問題の解決を布告したが、其の時余は、中歐情勢の必然性に從つたものと確信してゐた。一九三八年三月に於ても余はまだ斯う信じてゐた、チェコ國内の少數民族問題は徐々に（一般情勢が）進展して解決に至るだらう、そして遲かれ早かれ協調的共働に依つて、政治的のみならず、經濟的にも吾々總ての利益になるやうな共通の段階に達し得られるだらうと。併し頭から足の先きまで國際的民主主義的金融業者の手中に陷つてゐるベネシュが、此の問題を驅つて軍事的のものとなし、獨逸民族壓迫の浪を起し、同時に諸君御承知の動員を行ひ、以て獨逸

一九三八年五月二十一日の僞瞞

國家に國際的敗北を蒙らせ、其の威信を傷けようとした時、其の時始めて余は、此のままでは最早解決は不可能であると思つたのだ。何故なら、獨逸も動員したと言ふ當時の虚報は獨逸國の威信を失遂させんがために、明かに外國から吹き込まれ、チェコ人に入れ智慧されたのに違ひないからである。

獨逸は去年の五月には唯の一人も動員したことはないなどと此處に又繰返す必要もあるまい、更に、少數民族をより正しく待遇することが、相互理解に至る道を拓くことになるのだと言ふことは、シュシュニックの運命を見れば教へられるに違ひないと吾々は思つてゐたが、これも今更言ふまでもあるまい。余個人としては、兎に角辛棒強く、又必要とあれば、年月がかかつても、斯う言う（少數民族待遇改善に依る）平和的解決をしようと言ふ腹だつた。併し斯う言ふ平和的解決こそ正に、民主主義諸國の使嗾者連の毛嫌ひする所だつた。彼等は吾等獨逸人を憎惡してゐる、そして吾々を剿滅したくてたまらないのだ。併しチェコ人は彼等にとつては何でもない、目的に對する手段に過ぎぬ、彼等には健氣な一小民族の運命など興味はない、彼等の政策のための犧牲となるに違ひない何萬何千の健氣な兵士の生命などには頓着しないのだ。之等西歐の平和を賣り物にする使嗾者輩には平和を確立することなどはどうでもよいのだ、然らずして、血を流させよう、そして此の流血に依つて諸國民を煽動し、更に亦血を流させよう、と言ふのが彼等の關心事なのだ。

かるが故に、獨逸動員說は捏造せられた、そしてプラーク民衆は僞瞞されたのだ。これはチェコの

動員に口實を附けるためだつたのだ。且又これに依つて、最早避け難いと見えたズデーテン地方の人民投票に思ふ壺の軍事的壓迫を加へ得ると考へられたのだ。

彼等の考に依れば、獨逸には二つの可能性しかなかつた、卽ちチェコの動員を承認し、屈辱的敗北を甘受するか、或ひはチェコ・スロヴァキアと事を構へる、卽ち流血の戰ひだ、そして延いては此の事件に全然無關係な西歐諸國民も動員に至る可能性が生じ、彼等も同じく此の避け難い血の燥宴に卷き込まれる、そして以て人類は此の新しいカタストローフに落ち込み、ある者は戰死の名譽を擔ひ、又他の者は戰爭商賣で一儲けすると言ふことになるかであつた。

議員諸君！　諸君は當時余の爲した決心を御承知の筈だ。卽ち

一、此の問題を解決すること、それも一九三八年中に、少くとも十月二日を期限とする。

二、此の解決の準備をなすこと、此の問題に（橫から）介入しようとすれば、必ずや國民の一致團結した力の排擊に出會ふ樣に、あらゆる手段を盡して準備すること。

此の時に當つて余は西部國境防備の工築を決し、命令を下したのである。一九三八年九月二十五日には既に、大戰當時の昔のジークフリート線の防禦力を三十倍乃至四十倍も凌駕する狀態に達した。それ等は今は大體に於て完成し、然して目下は余が後に與へた指令に依りアーヘン、ザールブリュッケンの外郭新防禦線の擴張中である。これも亦大部の範圍に涉り防禦出來る狀態に出來上つてゐる。未

西部國境防備

曾有の防壘の築かれた今日の此の狀態から見れば、獨逸人は、如何なる世界の强國も此の戰線を突破することは出來ない、と安んじ確信して可なりである。

チェコ動員に依る第一回挑發的試みが、望んだ結果を得るに失敗した後、第二の段階が始つた、此の段階に於ては、事實中歐丈にしか關係のない事象は中歐丈で解決させやうと言ふ傾向が益々明確に現はれて來た。今日「ミュンヘンの轍を踏む勿れ」と言ふ叫びが世を風靡してゐるが、これこそ戰爭使嗾者輩の目には、該問題の平和的解決は實に又なき破滅的損害なりと映じた證據である。彼等には流血に至らなかつたのが殘念なのだ。と言つても勿論自分の血のことではない、彼等煽動者は彈雨の中には決してゐない、居るのは金の儲かる所丈である。否、(彼等の所謂血と言ふのは)名もなき無數の兵士の血の積りなのだ。

更に亦ミュンヘン協定が行はれたのも、全然不必要なことであつたかも知れない、と言ふのはミュンヘン協定は單に以下の理由から成立したのだ、卽ち最初は如何なる代價を支拂つても抵抗すべしとまで煽動した當の國々が、後になつて此の問題を何とか解決せざるを得ない樣は情勢になつた時、各々程度の差こそあるがそれぞれ威信を損はぬ程度に手を引く方法を考へねばならなくなつて來たからである。(註、チェコを使嗾したが、情勢獨逸に有利と見るや其の解決を中歐丈に任せて、自分等は面子を傷けぬ樣に退場する。)蓋しこれ等西歐諸國の介入がなかつたならば、此の全問題の解決は、——例

へそれがあれ程に尖鋭化したとしても、——恐らくは兒戯にも等しく易々たるものがあつたであらう。

ミュンヘン協定の眞義

ミュンヘン協定の決定は次の如き結果を生んだ。

一、ボヘミヤ、モラヴィヤ中獨逸邊境居住地の主要部は獨逸國に復歸すること。

二、此の（チェコ）國に關する他の殘餘問題の解決、卽ち洪牙利及スラヴ少數民族の復歸乃至分割は保留すること。

三、（殘餘チェコ領の國境）保障問題は未だ殘つたまゝだつた。獨伊に關する限り、此の國の保障は始めからチェコ・スロヴァキアに直接國境を接し利害關係を有する總ての國々の贊同次第だと言ふことにされたのである。卽ち如上の國々に關係あるが、まだ保留されてゐる問題の事實上の解決を待つと言ふことになつたのだ。併し以下の問題も未解決であつた。

イ、マジャール的部分の洪牙利への復歸、

ロ、波蘭的部分の波蘭への復歸、

ハ、スラヴ問題の解決、

ニ、ウクライナ問題の解決、

御承知の如く、チェコ・スロヴァキアと洪牙利の折衝が開始されると直ぐ、チェコ・スロヴァキア及び洪

牙利の當事者より、獨逸及び吾が盟邦伊太利に、スロヴァキア、カルパト・ウクライナ及び洪牙利の新國境設定に「調停者」をして呉れと申込みがあつた。卽ち當事國は（ミュンヘン協定の）四國に訴へる可能性を利用せずに、否、逆に其の可能性を斷念した、卽ち拒否したのだ。

これは當り前のことだ。此の地域に住居してゐるものは皆平穩と平和を望んでゐたのだ。獨伊は此の聲に何時でも應じる積りでゐた。英佛共に此の新協定——これはそれ自體としてはミュンヘン協定から形式上は離れたものだが——に反對しなかつた、又反對もし得なかつたのだ。と言ふのは、唯當事國の請願のみに基いた獨伊の行動に、巴里又は倫敦から抗議でもしたとすれば、それは正氣とは思へぬものだからだ。

獨伊に依つて爲された調停は——斯う言ふ場合には定つてさうだが、——どの側（致國も洪國）をも十分には滿足させなかつた。これは兩方面が自發的に此の調停を承認せねばならぬと言ふ點に始めから困難があつたのだ。故に此の調停が實現された時、これの承認に引續き直ちに猛烈な抗議が二つの國から爲された。洪牙利は一般並びに特殊な利害關係からカルパト・ウクライナを要求した、波蘭も亦同じく洪牙利との直接の連絡を要求した。斯う言ふ狀態では、嘗てのヴェルサイユの申し子たる殘存國家は死刑を宣せられたのと同じである。

恐らくは唯一つ丈從來の狀態維持に關心を持つてゐる國があつたのは事實である、羅馬尼これであ

チエコ・スロヴアキアの解體

る。羅馬尼は同國の最も權威ある政治家の口を藉りて余に直接に斯う言ふことを言つた、ウクライナ及びスロヴァキアを通じて獨逸と直接の連絡路が保持されることは、實に望ましいことであると。亞米利加の千里眼のお考へでは羅馬尼政府は獨逸の脅威下に苦んでゐるとおつしやるが、其の事實無根なる事の（言はば）「繪解き」の積りで余は之を言ふのだ。併し（斯く事態の）發展に何時までも楯突いたり、又獨逸國が全然責任を持ち得ぬ情勢の爲に鬪つたりするのは、獨逸の任務ではなかつたと言ふことも今では明白である。

故に、獨逸は羅馬尼への進出路を確保する爲に、波蘭と洪牙利の國境に關する共通の希望を蹂躙したなどと言ふ非難を甘受する意志は最早毛頭無いのだと、獨逸政府の名に於て中外に表明せんと余は決心するに至つたのだ。更にチエコ政府は其の昔の遣り方に復し、スロヴァキアも其の獨立の希望ある旨表明したからには、此の國家の存續は最早問題ではなくなつたのである。

ヴェルサイユから生れたチエコ・スロヴァキアの機構は過去のものとなつた。チエコ・スロヴァキアは解體した、それも獨逸がそれを望んだからではない、結局は生存能力のない人工的國家を會議の机上で造り上げたり、維持したりすることは出來ないからなのだ。

故に獨逸國はチエコ・スロヴァキア解體の數日前英佛より爲された保障問題に關する質問に答ふるに、此の保障の拒否を以てした。それはこれに關し當時ミュンヘンで取定められた條件が全然缺除してゐ

たからである。いや其の反對である。チェコ・スロヴァキアの全機構が解體に瀕し、いや實際上全く瓦解してしまつた時、獨逸政府は遂にこれに干渉する決心をなした、併しこれは當然極まる義務を遂行せんために他ならかつた。何故なら斯う言ふ事實があるのだ。

獨逸政府はチェコ外務大臣シュヴァルコフスキーが始めての訪獨に際し、チェコ・スロヴァキアの將來に關する見解を明瞭に披歷して置いた。其の機會に余はシュヴァルコフスキーに判きり言つて置いた。チェコ內に殘つてゐる多數の獨逸小數民族が誠意をもつて待遇されるならば、又チェコ全國の治安が維持されるならば、吾々もこの前提に於て、獨逸國の誠意ある態度を確保し、又獨逸側からもチェコに對し邪魔だてする意志はないと。

同時は余は、若しチェコが前大統領ベネシュの樣な政治的傾向に沿ふて一步でも企てる所あるならば、獨逸は此の線に沿ふた發展は甘受しない許りか、事の大きくならない中にこれを鎭壓すると言ふ點に就いても、誤解ない樣に念を押して置いた。更に亦、法外な軍需工場を此の中央に設置して置くことは無意味、無益である、唯危險の發火點としか思へぬと言ふことも指摘して置いた。

余の警告が如何に正當なるものであつたかは、爾後の(事態)發展に依つて證せられた。絕えず盛になりつゝあつた潛行的宣傳と、次第に脫線して昔の書き振りに逆戻りしたチェコ新聞(の論調)に依つて、今に(チェコは)又昔と同じ樣な狀態に復すだらうと言ふことが、どんな馬鹿にでも解る程になつ

た。誰か氣の狂つた樣な輩が此のとてつもなく蓄積された武器を自由にし兼ねまじき可能性を何時も考慮に入れてゐなければならなくなつた丈、それ丈軍事行動に出さうな危險も大きかつた。これは實に想像も及ばぬ大爆發を姙んでゐるものだつた。

國際的大火藥庫

議員諸君！　余は此處に其の證據として、國際的中央火藥庫の實に尨大な（貯藏）數値を擧げて、其の一班を窮つて頂かざるを得ない。此の地方占領後沒收し、保管したものは次の如くである。

A、空　軍

一、飛　行　機　　千五百八十二臺
二、高　射　砲　　五百一門

B、陸　軍

一、重　砲　輕　砲　　二千七百七十五門
二、迫　擊　砲　　七百八十五門
三、裝甲自動車　　四百六十九臺
四、機　關　銃　　四萬八千八百七十六挺
五、拳　銃　　十一萬四千挺
六、小　銃　　百九萬挺

C、彈　　藥

一、歩兵銃彈丸　　十億發以上

二、大砲彈丸及瓦斯彈　　三百萬發以上

D、其の他諸種の兵器

架橋用具

聽音器

探照燈

測量器

自動車、オートバイ、トラクター類 (Kraftfahrzeuge und Sonder-Kraftahrzeuge)

右何れも多數。

最後の瞬間に於いて責任ある（地位にある）人々の炯眼のお蔭で、余が此の爆發を阻止し、且つ余の確信に依れば、中歐の危機發火點としての該問題を根本的に絶滅せしむる樣な解決に達し得たのは、實に幾百萬の人々にとつて幸ひであつたと信ずるのである。

此の解決はミュンヘン協定に背馳するものであるとの主張は、何等の根據もなく、又證明づけられる所もない。ミュンヘン協定の解決は斷じて最後決定的のものとは言へなかつた。何故ならば該協定自

ミュンヘン協定の背馳に非ず

體が、未だ解決を要する問題を殘し、且それは解決されるべきことを自ら許容してゐたのである。

當事國が――そしてこれが重大な所なのだが、――(ミュンヘン協定の)四ケ國に賴らず、たゞ獨伊のみに賴つて來たと言ふ事實を以て、吾人が非難される譯がない。更に該國は遂に自ら勝手に崩壞してしまひ、從つてチェコ・スロヴァキアは既に無くなつてしまつたと言ふ事實も吾等の責任ではない。併し(チェコ側に)人種學的原則がもうとつくに效力を失つてしまつてゐる今日、獨逸國が千年も昔からの利益、それも政治的のみならず、經濟的にも然かある利益を自分の庇護の下に置いたと言ふことは、當然なことである。

獨逸國の爲した此の解決が正しいか否かは、將來が定めてくれる。併し一點確なことがある、それは、此の解決は何等英國の監督下にも、英國の批判下にも置かれぬと言ふことである。何故ならばボヘミヤとモラヴィアは、舊チェコ・スロヴァキアの最後の殘餘地域であつて、そも〳〵ミュンヘン協定とは全然無關係なものなのだ。例へば愛蘭土に於ける英國の處置が正しいか間違つてゐるかは、何も獨逸の監督や批判を受けなくてもよいのだ、それと同じことが此の昔からの獨逸選帝侯國に關しても言へるのだ。

ミュンヘンに於てチェンバリンと余との間に達せられた協定を、どうして此の場合にも適用させ得るか、余には全然理解出來ぬ所である。と言ふのは、チェコ・スロヴァキアに關する件は、當時定められ

得た程度に於てのみ、四ケ國のミュンヘン議定書に定められたのだ。これを別にしても、若し當事諸國が一致（した意見）に達し得ない様な場合には、四ケ國に訴へ得る様に準備もされてゐた。此の場合には四國は三ケ月後更に協議のため集まる積りだつたのだ。

所が當事諸國は全然四國に訴へることを爲さずに、たゞ獨伊のみに賴つた。獨伊の爲した事が結局はづれ程正しかつたかは、次の事から解る、卽ち英佛共に之に對し何の抗議も申し込まなかつたし、兩國とも獨伊の爲した調停を文句なく承認した。

さうだ、チェンバリンと余の間に出來た協定は、此の問題に關係したものではなくて、全然、獨英の相互共存に關する問題に對するものであつた。此の問題は將來ミュンヘン協定と獨英海軍協定の精神に從つて友好的に取扱はれるべきこと、それも相互に話し合ひの建前で行くべきこととの取決めに依つて明白に示されてゐる。併し若し此の協定が將來獨逸の政治的行動にまで適用されると言ふならば、英國も亦、例へばパレスティナか何處かに於ても、先づ獨逸に相談することなくしては一步も動いてはならぬ事になる。勿論吾々は斯う言ふことを望んでゐない、同じく吾々からも之に似たことを期待して貰ひ度くないもんである。若しチェンバリンが、ミュンヘン協定は獨逸に依つて破られたが故に、破棄されたと論斷するならば、余は其の見解を認め、それに從つて行動するであらう。

余は余の全政治活動を通じて常に緊密なる獨英友好と協働の樹立を念頭に置いてゐたのである。余

の運動に於ても余は同じ考を持つ人士を無數に獲得した。或ひは彼等は此の（親英）態度の故にこそ余に與して呉れたのかも知れない。此の獨英友好と協働に對する望みは、此の兩國民が（人種的）同系統であると言ふ事から由來する余の感情と一致する許りか、同時に英吉利世界帝國の存在が全人類の利益に重大なる關係ありと考へられる余の認識とも一致するものである。

此の英帝國の存在は全人類の文化及び經濟に對し、測り知られざる重大性をもつファクターであると、余は固く信じて、未だ疑つたことはない。大英帝國が如何にして其の植民地を獲得したとしても、——これ等は總て暴力を以てした、又流血の暴力をもつてしたことも非常に屢々あるのを余は知つてゐるが、——兎に角他の國にしても此の方法に依らなければ成立しなかつたし、又には、世界歷史に於ては結局は結果の方が方法より大切だつたのだ、それも其の方法が成功した（註、方法がよかつたから結果がよかつた、）と言ふことでなくて、（方法はどうでも）其の手段から生じた一般的利益の方が重大だつたのだ。

扨てアングロサクソン族が世界に於て測り得べからざる程の植民事業を成し遂げたことは確である。此の事績に對しては余は心から讃嘆するものである。此の事績を破壞しようと考へるのは、高度の人間的立場から見れば、人間らしい（氣儘から生ずる）ヘーロストラテントゥーム（註、破壞主義、希臘人ヘーロストラトスが自分の名を不朽にするため、小亞細亞ヘフェズスにある希臘の狩獵の神アル

テミスの宮殿を焼き拂つた故事。)に他ならぬと余は考へる。但し、此の事業に對する余の心からなる尊敬は、決して余の屬してゐる民族の生活確保を斷念せしめるものではない。

若し他方(卽ち英國側)が、英國の利益の他に獨逸の利益と言ふものもあるのだと言ふことを認識しないならば、又英吉利世界帝國の維持は英國人の生活にとつて意義あり、目的ある許りでなく、獨逸の自由と獨逸國の維持は獨逸人にとつての生活目的でもあることを認識しないならば、獨逸民族とアングロサクソン民族の永續的友好關係を樹立するのは不可能であると思ふ。兩國民間の實際の永續的友好關係は相互の尊敬を前提として始めて考へられることである。

英國國民は大世界帝國を支配してゐる。此の世界帝國は獨逸民族の衰微時代に作られたものである。それ以前には獨逸が大世界帝國だつた。嘗ては全西洋を支配してゐたのだ。併し慘澹たる戰爭、宗教的鬪爭の中に、並びに國內の國家的分裂のために、此の大帝國は力と偉大さを失ひ、遂に深い睡眠狀態に陷つたのだ。

併し此の舊帝國が正に消滅すると見えたとき、再興の萌しは早くもほの見えて來てゐたのだ。ブランデンブルクとプロシアから新獨逸國が生れた、卽ち第二國家である、然してこれから遂に(現在の)獨逸民族國家が出來上つたのである。

英國人總てに解つて貰ひ度いことがある。卽ち吾々は英國人に對しては何等劣性感を抱いてゐるも

のではないと言ふことだ。劣性感を抱く程吾等の過去は貧弱ではなかつたのだ。

英國は多くの偉人を世に出した、併し獨逸もそれに劣らず出してゐる。吾が民族の生活權主張のための激烈な戰ひのために、此の三百年間に渉り獨逸國守護のため丈でも非常なる人命の犧牲を拂つてゐる、それは他の民族が其の生存の爲に拂つた犧牲を遙かに凌駕するものである。永遠に攻撃されてやまぬ獨逸國が、此の人命の犧牲にも拘らず自分に所屬してゐたものを守ることも出來ず、且つ多くの所領をも犧牲に供せねばならなかつたのは、一に其の國家的發展の失敗と、それから生じた萎縮のために他ならない。

今や此の狀態は克服された。故に吾人は獨逸人として、英國國民に劣ると言ふ樣な氣持は些も持つてゐない。吾等の持つ自尊心は、英國人が英國に對す自尊の念と同樣に大きなものである。二千年に渉る吾等が民族の歷史中には、吾等に心からの誇りを持たしめるに足る丈の理由も事業も十分にあるのだ。

若し今英國が吾人の此の態度に何等の理解も示さず、獨逸國を屬國の如く見做しても差支へなからうなどと信じるならば、勿論吾等が英國に對する友愛と友誼は實に無駄だつたと言つてよい。故に吾等は絶望したり、意氣沮喪したりしない、然らずして吾人は——自己の力に對する自覺と、盟邦の力に支持されて、——吾人の獨立を確保し、吾人の威信を保ち得る樣な道を行くであらう。

余は英國首相の聲明を聞いたが、これに依れば、英首相は獨逸のなす保證には信をおくことが出來ないと言ふ。斯る事情の下にあつては、吾々は英首相をも、又英國民をも、最早相互の信賴に依つてのみ考へ得る樣な狀態に置かぬ樣にしようと思ふ、且余はこれを當然のことと考へるのである。

獨逸國が國民社會主義となり、これと共に再興の途に就いた時、余は英國に對する不變の友好政策に從つて、余の方から獨逸海軍力の自發的制限を提議したのだ。

此の制限は勿論一つ前提とする所があつた、卽ち獨英間には最早二度と戰爭が起り得ない樣にと言ふ意志と確信が之であつた。此の意志と確信は今日でも余は持つてゐるのだ。

併し今日余は、英國の政策は公式、非公式を問はず、以下の點に疑ひなしと言はざるを得ない。卽ち倫敦に於ては（上述の如き余の）此の確信を最早同感をもつて迎へてゐない、反對に他日獨逸が何か紛爭に卷き込まれる樣なことがあれば、それが如何なるものであつても、大英帝國は常に反獨逸の立場をとると言ふ意見が支配してゐる。卽ち英國に於ては對獨戰爭は當然のことの樣に考へられてゐるのだ。

余はこれを深く遺憾に思ふ、何故ならば余が英國に對してなしたる、——又今後もなすが、——要求は植民地返還要求唯一つ丈である。しかも之は決して何等軍事的紛爭の根據になる筈はないと明確に言つてある。英國にとつて此の植民地は全然無價値なのだから、英國は何時かは獨逸の狀態に理解

を示すだらう。そして英國には實際上何等の利益にもならぬが、獨逸にとつては生活を左右する程の重要性ある此の植民地よりも、獨逸の友情の方をより高く評價するに違ひないと、余は常に信じて居つたのであつた。

植民地要求を除けば、余は未だ、英國の利益に抵觸する樣な、又は英國の世界帝國に危險を及ぼし兼ねぬ樣な、從つて英國に對し有害と考へられる樣な要求は一つもしたことはない。余は常に、獨逸の生活領域に關係あり、卽ち獨逸國民の永久所有地に緊密な關係ある要求以外一歩も出たことはないのだ。併し今日英國が新聞に於ても、亦公式にも、如何なる事情にあつても反獨逸的に出でざるを得ないとの見解を持し、且又吾人の知る如くんば、包圍政策に依つて之を實證するに於ては、海軍協定の前提は除去されたのだ。故に余は、今日之を英國政府に通告することに決心したのである。

之は吾人にとつては、決して實際上に含む所があつての行動ではない、——と言ふのは、余は今でも猶吾人は英國との軍備競爭は避け得られることを望んでゐるのだ、——然らずして自尊心の發動に過ぎないのだ。若し英國政府がもう一度此の問題に關し重きを置き獨逸と折衝をしようと欲するならば、或ひはまだ明確な一義的な相互理解に達し得られるかも知れぬとの見込に對し余ほど幸福に感ずるものはないであらう。

更に、余は余の國民を知つてゐる、——そして余は國民に信賴してゐるのだ。吾等は嘗て吾等に屬

さなかつたものは何も望んでゐない、如何なる國も獨逸に其の所領を奪はれることはないであらう。併し誰でも獨逸國を攻撃し得ると思ふ者は、一九一四年のものとは比較にならぬ程の力と抵抗に直面するに違ひない。

メーメル問題

これに關聯して余は同時に、チェコ・スロヴァキアの動員を爲さしめたのと同じ連中に依つて、獨逸に對する新（反對）運動の起點として撰ばれた件に就いても一言觸れて置き度い。

議員諸君！　余は此の演説の始めに於て、余は未だ嘗て、墺太利の場合でも、チェコ・スロヴァキアの場合でも然うであつたが、今日迄に完成した出來事と矛盾した樣な態度は余の政治生活中唯の一度もとつた事はないと述べた。故に余はメーメルの獨逸人問題に關しても、若しもリトワニア自身に依る立派な且つ寛大な解決に至らなかつたならば、何時かは獨逸が此の問題を取り上げるに至るのだと常に指摘してゐたのだ。御承知の如くメーメル地方は嘗て同じくヴェルサイユの指令に依つて全く勝手に獨逸國から剥奪され、遂に一九二三年、卽ち何事もない平和の眞ただ中に、リトワニアの占有する所となつた、何れにせよ獨逸から沒收された地なのだ。此の地方の獨逸人の運命はそれ以來正に殉難と言つてよい。

ボヘミヤ及びモラヴィアの獨逸復歸進行中、余はリトワニア政府と協定に達する事が出來た、然してリトワニア政府は該地方が同じく武力の行使もなく、流血をも見ずに獨逸に復歸することを許容して

獨逸經濟協定の意義

くれた。此處に於ても余は、吾等が以前領有してゐたより一平方哩たりとも、又吾等より奪はれたものより一平方哩たりとも餘計に要求しなかつた。と言ふ意味は卽ち、ヴェルサイユの氣の狂つた平和の壓制者連が吾人から奪ひ取つた地方丈が、再び獨逸國に戻つたと言ふことなのだ。

此の解決は、余の確信に依れば、獨逸、リトワニア間の關係に有利であるに違ひない。何故ならば、獨逸は、事實吾等の行動が其の證據だが、リトワニアに對しては平和的、友誼的に共存し、經濟關係を樹立し、助成するより他に何等利害關係はないのである。

これに關聯して余は根本的に明瞭に說明して置き度いことが一つある。獨逸との經濟協定の意義は獨逸は輸出國としては、唯に殆んどすべての工業品の需要を滿し得るのみならず、同時に大きな消費國であるから、獨逸に賣る丈で世界貿易に乘出せる位多數の生產品の購買國でもあると言ふ點にある。吾人はこれ等經濟市場を保持する許りでなく、更に何より之の助成に盡力するのである。

何故ならば吾が國民の生存は大部分此處に基礎があるからである。所である國民を市場から例へばボイコットなどに依つて追出して、それに依つて——と余は敢へて思ふが、——飢餓に瀕せしめるを以て、非常な政治的成功と見做さうとするのは、やはり又所謂民主主義的政治家の偉大さの一部をなすものなのだ。言ふまでもない事だが、余の確信に依れば、國民はそんな事では餓死しない、斯う言ふ狀態に置かれゝば國民は寧ろ益々戰ふに定つてゐる。獨逸に關する限り、生活に重要なるある種の

市場は、外部よりのテロ的干渉に依つても、乃至は脅迫に依つても奪ふに任せぬと決心してゐる。これは併し吾人の利益に關係する許りでなく、吾人の通商の相手方の利益にも關係深いことである。此の點に關しては、どの商賣でも然る如く、相互依存であつて、一方的なものではないのだ。

民主主義的新聞紙上で、獨逸はある一國と緊密な通商關係を維持してゐることを理由として、其の國を獨逸に依存せしめるのだ等と言ふ素人經濟論調を讀まして頂いたことは吾々何遍あるか知れない位だ。實に身の毛もよだつ樣な猶太的大嘘だ。今日獨逸はある農業國に器械を輸出し、其の代りに彼からは食料品を得てゐるが、これ卽ち消費國としての獨逸が農業國よりの食料に依存してゐることは、吾人から器械類の支拂を受けてゐる農業國の獨逸への依存度以上でないにしても、少くとも同じ位であると言ふことである。

バルト海沿岸諸國

獨逸國はバルト海沿岸諸國を重要なる交易相手國と見てゐる。

此の故に、これ等諸國が自主獨立のちやんとした國家生活を營んでゐることは、吾人に重大な關係がある。これは吾人の眼から見れば國內經濟發展のための前提であり、此の前提は更に亦商品交換の前提を爲してゐるのである。故に余は獨逸、リトワニア間にあつた紛爭の種を一掃し得たことは欣快とする所である。と言ふのは之に依つて友誼的外交の道、——これは單に外交的儀禮に於てのみならず、實際の經濟的處置に關しても價値あるものであり、又余は將來も然りと確信するが、——其の友

誼的外交の道に横はる障碍を除去したことを意味するのだ。併し民主主義的諸國は又々流血の慘に至らなかつたこと、（換言すれば）十七萬五千の獨逸人が何より愛してやまぬ祖國に復歸し得た、しかもこの爲に數十萬の人々が銃火の犧牲にならなかつたと言ふことを此の上なく遺憾としてゐるのだ。

これは世界的人道主義の使徒の深く遺憾とする所なのだ。だから、彼等がこの事件に關聯して直ちに、歐羅巴の風雲を兎に角もう一度攪亂する様な可能性を新たに探し出したのも敢て異とするに足りない。そして、チェコ・スロヴァキアの場合と同じく今度も又獨逸の軍事行動、卽ち所謂獨逸動員の主張を手段として訴へた。動員の目的は波蘭にありと言ふのだ。

獨波關係に就いては大して言ふことはない。ヴェルサイユ平和條約は此處でも亦、それも勿論故意にであるが、獨逸國民に非常な痛手を負はしたのである。波蘭に海港を與へるための廻廊設置と言ふ可笑しな遣り方のために、獨波間の相互理解は永久に阻害されることになつた。此の問題は——既に力說した様に、——獨逸にとつて恐らくは最も手痛い打擊を蒙つた問題と言へるだらう。

併しそれにも拘らず余は、波蘭にとつて自由な海への出口の必要性は看過すべからざるものだ、又そもそも此の場合の根本問題として、共存共榮する様に神に定められた、——否何なら呪はれたと言つてもよいが、——國民は何もわざわざ、不必要に其の生活を苦しめない方が目的に適ふのだと言ふ見解を常に變らず持してゐたのだ。

故ピウストスキー（Pilsudski）元帥は又同じ意見をもつてゐたが、獨波關係「解毒」問題を檢討し、獨波兩國は結局は兩國關係の整調に對し絶對に軍事行動に依らぬと言ふ協定を締結する意向をもつてゐた。（これは實現したが、）併し此の協定に唯一つ例外があつた、それは波蘭に與へられてゐたものである。卽ち從來波蘭が締結してゐた相互援助條約（註、一九二一年二月の佛波政治協定並びに軍事取極め、これは一九二五年ロカルノ條約に依つて佛が援助保障を與へてゐる。）は此の（不侵略）條約と背馳せぬと言ふ點である。併しこれは全く過去に於て締結された相互援助條約にのみ適用出來るのであつて、將來勝手に締結さるべき新しい條約には當嵌まらないのは當然であつた。此の獨波協定は歐羅巴情勢緩和に非常に貢獻したのは事實である。

ダンツィヒ問題

併し獨波間には、遲かれ早かれ全く自然に解決さるべき問題が殘つてゐた、獨逸都市ダンツィヒ之である、ダンツィヒは獨逸の都市である、そして獨逸への復歸を望んでゐるのだ。所で此の都市は波蘭と協定を結んでゐるが、これは例のヴェルサイユ平和壓制者の手に依つて該都市に押付けられたものなのだ。更に以前此の上なき動亂煽動者だつた國際聯盟は、今では非常に如才ない高級委員に依つて代表されてゐるのだから、結局は此の禍の制度が次第に影が薄くなると共に、ダンツィヒ問題も何とか討議されねばならぬのだ。余は、此の問題の平和的解決は歐羅巴の緊張を根本的に緩和するのに更に貢獻する所あると見てゐた。と言ふのは此の緊張緩和は氣の狂つた戰爭業者のアジに依つて達せ

られることは斷じてない、ただ本當の危險要素を除去することに依つて達せられるのだ。

數ケ月前ダンツィヒ問題が數回話に上つたが、其後余はこれに關し波蘭政府に具體的の提議をなした。余は此處に此の提議を諸君に報告するが、これが果して歐羅巴平和のために考へられるべき最大の貢獻をなさぬものか否か、諸君自ら判斷して頂き度い。

既に指摘して置いた樣に、余は常に波蘭にとつて海への出口の必要なることは認めて居た、だから又其の必要性を常に考慮の中に入れてゐたのだ。余は民主主義的政治家ではない、余は現實主義的國民社會主義者なのだ。併し又余は、波蘭が海港を望む樣に、獨逸も亦東部地方の爲に海港を必要とする旨を、ワルソウ政府に解らすのも必要であると考へた。がこれがそもそも六敷しい問題なのだ。併しこれ等に對し責任あるのは獨逸國ではない、否、惡意からか、無思慮からか知らぬが、一つ一つに消え難い火繩を取付けた火藥の樽を歐羅巴中に百もばらまいたヴェルサイユのインチキ師に責任があるのだ。此の問題は舊式なやり方で解決出來るものではない、新しい方法を採らねば駄目だと思ふ。何故ならば、廻廊を通る波蘭の海への通路、又反對に廻廊を通る獨逸の通路は共に何等軍事的重要性を有してゐないからだ。これは全然心理的、經濟的重要性しかもつてゐない。斯う言ふ交通路に軍事的重要性を與へやうとするのは、之卽ち軍事的には實に稀有の無智さを表明するものだ。

扨て余は波蘭政府に次の如き提案をなした。

一、ダンツィヒは自由國家（Freistaat）となし、獨逸國へ復歸せしむること。

二、獨逸は廻廊を通過して（自動車）道路及鐵道を設置し得ること、右は波蘭が廻廊を治下に置くと同じく、治外法權的性質をもち獨逸の治下に置くこと。

これに對し獨逸は次のことに關し用意あるものである。

一、ダンツィヒに於て波蘭の經濟的權益を全面的に認めること。

二、ダンツィヒに於て、海への完全に自由なる出口として、（波蘭の）欲するままの大きさの自由港を波蘭のために確保すること。

三、之を以て獨波間現國境を承認し、且つ之を最後的のものと見做すこと。

四、二十五ケ年間の即ち余の壽命より遙かに永いと見られる、不侵略條約を波蘭と締結すること。

五、スロヴァキア國の獨立を獨、波、洪共同で保障すること、之即ち事實上は該地方に於ける獨逸の一方的指導權を破棄したものである。

波蘭の拒否

波蘭は余の此の提案を拒否し、次のことに關し用意ある旨聲明した。

一、（ダンツィヒ在留の）國際聯盟高級委員の交替の問題に關し討議すること。

二、廻廊通過に關して便宜を考慮すること。

余は此の波蘭政府の理解し難き態度を心から遺憾とした、併しこれ丈が決定的なのではない、最も

惡いことは、一年前のチェコ・スロヴァキアの場合の樣に、獨逸としては唯の一兵も動員せず、又波蘭に對して進入の意志の全然ないのにも關らず、波蘭側は、嘘つきの國際的煽動者達に乘せられて、軍隊を動員せねば治まらぬと考へたことである。上述の如く、これは非常に遺憾なことである、そして余が爲した此の提議を拒否したことが、本當に正しかつたか否かは、後世の者達が何時か決めてくれるだらう。これが、全獨逸國民が心から關心をもつてゐる問題を實に此の上ない妥協に依つて解決しよう、それも兩國民に有利なやうに解決しようと言ふ余の試みであつたのだ。

余の確信に依れば、ダンツィヒは決して波蘭のものとはならないと言ふ事は疑ふべくもないのだから、此の問題解決に於ては、波蘭は與へる（損する）側ではなくて、受取る（得する）側なのだ。國際的新聞の創作にすぎないが、獨逸に攻撃意志ありとの噂は、其の結果、御承知の樣に、所謂（波蘭）保障の申出となり、波蘭はある場合には、卽ち獨逸が何れかの國と紛爭を起す場合には、——此の場合には英國の登場は定り切つてゐるが、——獨逸に對して武器をとつて立つことを强ふる樣な、相互援助に對して波蘭政府は義務づけられると言ふことになつた。此の義務は、嘗て余がピウストスキー元帥と締結した（不侵略）條約に反するものである。何故ならば此の不侵略條約に（例外として）關係あるものは、當時既に成立してゐた（波蘭の）義務、卽ち吾人の知つてゐる佛蘭西に對する波蘭の義務

丈なのである。此の（攻撃）義務を今になつて更に擴張することは、獨波不侵略條約に背馳するものである。斯う言ふ事情であつたならば、余は當時此の條約を締結しなかつたに違ひない。條約國の一方が事實上いくらでも例外の場合の餘地を殘すならば、不侵略條約に一體何の意義があるのだ。（吾人にとつては）集團安全保障といふ、——とは卽ち集團不安全保障、——永遠の戰爭を姙む危機であるか、又は根本的に條約國間の軍事行動を全然含まぬ明確な協定あるか、二者の一のみである。故に余とピウストスキーの間に締結せられたる條約は波蘭に依り一方的に侵害せられたものと見做し、破棄せられたるものと見るのである。

余は之を波蘭政府に通達した。併し余は此處に繰返し言ふが、これは如上の問題に對する余の根本的見解に變化を來したと言ふ意味ではない。若し波蘭政府が對獨關係に就き新たに協定に依る整調を希望する場合には余は喜んで之を迎へる、但し此の整調が明確な、且つ兩國に同等な義務づけを基礎とすることを勿論前提としなければならない。何れにせよ獨逸は斯る義務を喜んで受理し、且つ履行する用意あるものである。

若し之等の原因から最近數週の間に、歐羅巴に新たに不安狀態が生じたとすれば、それに對する責任は全く、吾人が先刻承知の如く例の國際的戰爭使嗾者達の手先になつてゐる宣傳に負はさるべきである。此の宣傳は民主主義諸國の數多の機關に操られて、歐羅巴を絕へず益々神經質ならしめ、且つ

續々と流言蜚語を「生産」して、以て歐羅巴にカタストローフの實を熟せしめるのだ。之に依り今まで他の方法ではうまく行かなかつた事、卽ちボルシェヴィズムに依る歐羅巴文化の破壞を望んでゐるのだ。

之等煽動者輩の憎惡（の念が前より一層高まつたこと）は、歐羅巴危機の最大危險地域の一つ（西班牙）が、ある「一人の男」及び彼に屬する國民の英雄的行動と更に亦——余は敢て言ふが、——伊太利及び獨逸の義勇兵の手に依つて、彼等の手から奪取された爲と思へば、一層判きりと解る。此の數週間獨逸は熱誠なる共感を以て西班牙國民軍の勝利を體驗し、且つ祝したのである。余がフランコ將軍の呼聲と請願に應じ、ボルシェヴィズムの人殺し放火犯人とも言ふべき輩の國際的支持に對し、國民社會主義獨逸國よりの支援を與へんと決心したとき、同じ國際的煽動者連は此の獨逸のとつた態度を此の上なき破廉耻なるやり方で曲解し、且つ罵詈したのであつた。

當時の彼等の言は斯うだ、獨逸は西班牙に根を張り腰を落付ける意志がある、獨逸は西班牙の植民地を手に入れやうとしてゐると。それ所か獨逸は二萬の軍隊をモロッコに上陸せしめたと言ふ下劣なる嘘まで捏つち上げた。要するに獨伊の支援の理想主義に水を差し、これから又新たに戰爭使嗾の種を見出すためにはやらないことはないと言ふ有樣だつた。

數週の中に此の國民的西班牙の戰勝勇士は同國の首都に堂々と入城するであらう。西班牙國民は彼

をば、言語に絶した恐怖よりの救世主と見、且つ死刑にされ、謀殺された者のみでも概算七十七萬五千と言はれる人命を良心の犧牲に供した殺人放火犯人とも言ふべき者達よりの解放者と見て、歡喜して彼を迎へるであらう。西歐及亞米利加の民主主義的人道主義の使徒連から無言の慈悲深い御贔員を受けて、彼等は夥多の村々町々の全住民を文字通り屠殺したのであつた。

此の勝利の入城に際しては勇敢なる西班牙兵の列に伍して、伊太利の戰友と共に、吾が獨逸軍の義勇兵も參加する。やがて近き日に彼等を吾が獨逸の故郷の地に迎へ得るのを望んでゐる。其の日には吾が獨逸の兒等が彼の地に於て如何に勇ましく、高潔なる（西班牙）國民の爲に戰つたか、そして如何に男々しく歐洲文明救濟のために戰つたかを、吾等獨逸國民は體驗するであらう。

何故ならば人間以下のボルシェヴィズムが西班牙で勝利を占めたなら、其の（赤化の）波は易々と全歐羅巴に擴つたに違ひない。だからだ、歐羅巴が再び火焰の巷とならなかつたのを遺憾とする輩の憎惡が又出て來るのだ。この故に彼等は、國民間に相互不信の種を播き、これを何處かで彼等の望んでやまぬ戰爭氣分にまで持ち上げ得る樣な機會を失ふまいと愈々あせつてゐるのだ。

最近數週間に之等國際的戰爭使嗾者が出鱈目な陳述の形で「僞造」したもの、就中數多の新聞紙上に發表したものの中には、實に馬鹿馬鹿しく且つ惡意に滿ちたものがある。其の第一の結果は、——この宣傳が民主主義的諸國の內政的目的に役立つ事を目的としてゐる限りは別として、——目下不可

能を知らぬ（亜米利加）國への火星の人類の到來（獨逸の亞米利加侵入の如きこと）すらあり得ることだと考へる樣な神經質なヒステリーをばらまいた事だ。併し其の元來の目的は、英國の包圍政策を必要なるものと見做し、從つて最惡の場合にはそれを支持すると言ふ樣な一般輿論を沸き立たせるにあるのだ。

併し獨逸國民はこれに對して悠然として其の仕事を進めて行くことが出來る。獨逸の國境は獨逸史上比類を見ない陸軍によつて守られる、空は又强力無比の空軍が之を護り、獨逸沿岸は如何なる敵が來ても攻擊出來ぬ樣にしてある。西部には未曾有の强力なる防備工事が出來上つてゐる。併し決定的なるものは、民族全體の團結力である、獨逸國防軍に對する獨逸人相互間の信賴の念である、そして更に、——余は敢て言ふが、——すべての指導に對する信賴である。

獨伊同盟の力

併し吾が友邦の指導と國民に對する信賴も之に劣らざるものがある。共通の運命に結合されてゐる爲に、あらゆる點に於て吾人に最も密接な關係をもつ（伊太利）國家に對するものが其の最たるものである。本年に於ても亦ファシスト伊太利は公正なる獨逸の利益に對し最高の理解を示したのである。又吾人の側から言つても伊太利の生活必然性に對し之と同じ氣持を抱いてゐると言つても、何人も之を異とするには當らぬのである。此の兩國民を結ぶ同盟は斷じて引離し得ないものである。この確たる事實を搖がさうと言ふ試みは如何なるものであるにせよ。吾人には笑ふべきものとしか思へない。

何れにせよ、このことは數日前民主主義的有力新聞の論説に出てゐたことが最もよく解明して餘さざる所がある、即ち該新聞に依れば、獨伊を別々にやつつける爲に、兩國間に水を差すことなどは最早考へ得られない事だと言つてゐるのだ。

斯く獨逸政府は深い理解をもつて、かの盟邦伊太利のアルバニアに於ける行動を當然の權利と認め、かるが故に好意を以て迎へた。さうだ、ファシズムはたゞに權利を有するのみならず、自然からも歴史からも伊太利に附與された生活領域に秩序維持の配慮をするだけの義務もあるのだ。ただ之に依つてのみ人類文化の本當の隆盛の基礎も出來、且確保されると見るべきである。要するにファシズムの文明開化工作に對しては、國民社會主義のそれに對すると同じく、他の國々が疑をさしはさむ所は殆んどない筈のものである。何れの場合でも、他國の浮はついた大言壯語や、論據のない主張に對し、嚴然たる事實がすべてを語つてゐるのである。

日伊に對する關係

伊太利及び日本に對する獨逸の關係を緊密化することは、獨逸國家指導の不斷の目標である。此の三強國の自由獨立の存在及び維持の中に、本當の人類文化の保持、實踐上の文明及び正義の世界秩序の未來に對する最も強いファクターが存すると見る。

ルーズヴエルトに對する回答

最初に述べた樣に、一九三九年四月十五日に全世界に余に宛てたる電報——尤も余が之を實際に受取り、自ら目を通したのはもつと後だつたが、——の内容が明かにされた。この文書が如何なる種類

のものであるか、（申入れか、口上書か何だか解らぬ）又如何なる既知の方式のものか（如何なる外交文書の形式を踏んだものか）定めるのは困難である。故に余は獨逸國會の議員諸君、從つて全獨逸國民の前に此の奇態な文書の内容を分析し、同時に諸君及び全獨逸國民の名に於て、必要なる回答をなさうとするのである。

問題一

一、ルーズヴェルト氏は、目下全世界に於ては來るべき戰爭、いや第二次世界大戰の恐怖に何億と言ふ人類が絶えず怯えてゐる狀態にあることは、余にも亦解つてゐることだらうと言ふ意見である。これは、彼が代表してゐる全亞米利加合衆國の國民の深い關心事であり、且つ又全西半球にある他の國民全般に關しても言へることであると言ふ。

回答一

第一に言ひ得べきことは、勿論戰爭に對する恐怖は昔から常に存在して居つたし、（今に限らぬ、）且つそれは當然なのだ。

例へばヴェルサイユ平和條約締結後一九一九年より一九三八年までの間丈でも十四の戰爭が行はれてゐる。併し此の中の何れにも獨逸は參加してゐない、が「西半球」の諸國——其の諸國の國名はルーズヴェルト大統領が列擧したものだが、——は參加してゐるのである。更に此の同じ十四年間に二十六件の武力干渉及流血と暴力に依る制裁があつた。これにも亦獨逸國は全然參加して居らない。亞米利加合衆國自身が一九一八年以來六件の武力干渉を行つてゐる。ソヴィエト露西亞は一九一八年以來戰

爭及び流血暴力の軍事行動をなしたること十回に及ぶ。これにも亦獨逸國は唯の一件として關係してゐない、又これ等事變の原因となつたことすらない。

故に歐羅巴内外の國民の戰爭に對する恐怖が、此の際になつて、獨逸に責任ありと爲され得るかも知れぬ樣な本當の戰爭に對する恐怖に變つて來たと見做すのは、余の見解に依れば、間違ひであると思ふ。戰爭恐怖の原因は一から十まで、制禦されることなき、嘘つき、下劣なる新聞の煽動、並びに他國の元首を批判した極惡のパンフレットの流布、及び最後には地球の遊星からの干涉すら可能性ありとして、救ひ難い恐怖の巷にまで人を引づり込む人爲的の恐慌創作にあるのだ。

思ふに、諸國間の相互關係、特に他國の國内的出來事などに關し、(各國の)責任ある政府が政府自身にも、又新聞機關にも必要な制禦と眞實を愛する氣持を與へたならば、戰爭の恐怖などは忽ちに解消し、吾人が皆望んでゐる靜穩狀態がやつて來るに違ひない。

問題二

二、電報中に、ルーズヴェルト氏は所信を披瀝して、大戰爭と言ふものは、例へそれが他の大陸内に限られてゐても、永續きすれば重大な結果を及ぼし、來るべき數世代に涉つても影響する所甚大であると言ふ。

同答二

これは獨逸國民が一番よく知つてゐることだ。と言ふのは、ヴェルサイユ平和條約は獨逸國民に、例へ百年かかつても支拂ひ切れぬ位の負擔を課した、しかも亞米利加の國法學者、歷史家、史學敎授等

が證明した樣に、獨逸國は世界戰爭勃發當初には他の國民と同じく何等罪もなかつたにも拘らず斯う言ふ重荷を課せられたのだ。

併し余は、若しも世界の人々がわざわざ人爲的に漠然たる條約など言ふ義務づけの組織に依つて、全世界を組織的に紛爭に引込む樣なことが無ければ、如何なる戰ひでも全世界に、卽ち全地球に災害的な結果を及ぼすものとは考へない。何故ならば過去何世紀かに渉り、——又余が此の回答の最初に述べた如く、——最近十年間に於ても、世界は絶え間なく戰爭を經驗してゐるのだ。若しルーズヴェルト氏の考へ方が當つてゐるならば、人類は既にもう、これから先數百年も耐へねばならぬ樣な總額をば、これ等すべての戰爭の結果負はねばならなくなつてゐる。

問題三

三、ルーズヴェルト氏は以前にも他の機會に於て、武力に訴へることなく政治、經濟、社會問題を平和裡に處理するため、余に訴へたことがあると言明する。

回答三

此の考へは余自身が今まで常に抱き代表してゐたものである、然して事實歷史が示す如く、余は何等武力を用ひず、卽ち武器に訴へる所なく、必要なる政治、經濟、社會問題を處理したのである。

遺憾乍ら此の平和的處理は、當該問題に直接の關係もなく、又何等影響も受ける筈のない政論家、政治家、新聞記者達の使嗾煽動に依つて困難ならしめられたのだ。

問題四

四、ルーズヴェルト氏の信ずる所に依れば、「時の流れ」は再び武力と言ふ脅威を齎した、若し此の

脅威か永く續くならば、世界の大部分は共々壞滅に至るは避け難いものであると言ふ。

回答四　他國民に對する此の種の脅威は、民主々義的新聞紙上には毎日の樣に虚報が出るが、獨逸の關する限り余の知らざる所である。

毎日新聞紙上に現はれる所を見れば、獨逸の動員、軍隊上陸、不法强請等の記事があり、之が何れも獨逸と極く平和裡に存してゐる國々のみならず、大部分は獨逸と密接なる友好關係ある國々に當てたものなのだ。

問題五　五、ルーズヴェルト氏は更に、戰爭になれば、戰勝國、戰敗國、中立國の何れもが（損害を）蒙らねばならぬであらうとの見解である。

回答五　此の信念は余が政治家として二十年間も抱いてゐたのである。これは、亞米利加の責任ある政治家達が遺憾乍ら、世界大戰參戰及び其の結末の附け方に關し、これと同じ見解に達し得なかつた當時既に余が持つてゐた信念なのだ。

問題六　六、最後にルーズヴェルト氏は、國民を今にも襲ひかゝらんとする禍から救ふのは、一に大國民の指導者の手の中に握られてゐると言ふ。

回答六　若し此の言の通りだとするならば、さう言ふ力を附與されてゐる各國の指導者が、戰爭を嗾（けしかけ）る新聞を統禦し、以て今にも來らんとする戰爭の災禍から世界を守ることをしないのは、極端に惡い言葉

を用ひなくても、實に刑罰を加ふるに足る輕卒である。更に責任ある指導者達が諸國民相互間の外交關係（の調整）を慮る所なく、（反對に）理由もないのに派遣大使を召喚したりして、外交關係（の調整）を困難ならしめる許りか、阻害さへしてゐるのは、更に又譯の解らぬことであると思ふ。

問題七　七、ルーズヴェルト氏は言ふ、歐羅巴に於ては三つの獨立國家が、亞弗利加に於ては一つの獨立國家が消失したと。

同答七　歐羅巴に於ける三つの國家とは何であるか余には解らない。併し若し之が獨逸に復歸した地方を指すのならば、余は大統領殿が歷史的錯誤を犯してゐることを指摘せざるを得ぬ。これ等の國家が歐羅巴に於て其の獨立的存在を失つたのは、今ではないのだ、一九一八年に既に其の存在は無かつたのだ、卽ち、それは、勿體振つて與へられた約束（ウィルソン十四條）に反し、彼等は其の共同社會から分割せられ、彼等が決して然かあるを欲したこともなく、又過去に於いてもさうでなかつた樣な國家に造り上げられた時、更には彼等に獨立ならざる獨立、せいぜい彼等の嫌厭する國際的な他國への依存による獨立を押し付けられた一九一八年に消失してゐたのだ。

更に又、自由を失つて了つたとの御意見の亞弗利加の國家に關しても、やはり考へ違ひをして居られる。亞弗利加に於て自由を失つた國家はたゞ一つのみに止らず、此の大陸の原住民の殆んど全ては、他國民の宗主權の慘酷な暴力を以て征服せられ、其の自由を剝奪されたのだ。モロッコ人、ベルベライ

人、アラビヤ人、ネグロ人種などは何れも皆他國の暴力の犧牲となつたのだ、それ等諸國の用ひた刀劍、爆彈に押してあるスタムプは Made in Germany ではない、Made by Democracies なのだ。

問題八　八、最後にルーズヴェルト氏は、――尤もこれは氏も當つてゐるとは思つてはゐないが――併し今後まだ他の現存獨立國家に對する侵略行爲が企圖されてゐると言ふ噂に言及してゐる。

回答八　余は斯う言ふ根據のない仄しは何れも、靜穩卽ち世界の平和に對する罪惡であると見る。これは更に諸小國を恐怖に陷れ、或ひは少くとも神經質にする丈のことだと思ふ。併し若しルーズヴェルト氏が實際に何か一定の場合を心に思つてゐるならば、攻擊の脅威を受けてゐる諸國及び問題の攻擊國の名を擧げて貰ひたい。さうすれば、簡單な聲明で此の途方もない一般的罪惡を抹殺してしまふことも出來るであらう。

問題九　九、ルーズヴェルト氏は言ふ、若し此の事態を避ける樣な合理的方法が發見されないならば、明かに世界の情勢は今や大慘禍に終はらざるを得ない樣な方向に進みつゝあると。更に、余及び獨逸國民は戰爭を欲しないとは、余の屢々確言した所であるから、若しそれが本當ならば、戰爭を起す必要もないではないかと言ふ。

回答九　余はもう一度繰返すが、第一に余は戰爭をした憶えはない、第二に數年來余は余の戰爭嫌厭、特に戰爭使嗾に對する憎惡は明確に述べて來た所だ、更に第三に、そもそも一體何の爲に余は戰爭を起す

べきか、余には解らない。ルーズヴェルト氏が之に關し余に說明して下されば、誠に幸甚である。

問題十

十、最後にルーズヴェルト氏は斯う言ふ見解である、卽ち、純然たる自國防衞の場合は別として、ある統治權が、自國民又は他國民に戰爭の災禍を蒙らす如き權利又は必然性を持つてゐるとは、地球上如何なる國民と雖も肯定出來ぬ所であると。

同答十

これは全て理性ある人ならば誰でも考へることである、併し殆んど如何なる戰爭に於ても純然たる自國防衞と言ふことは（交戰）兩國から主張されることであり、更に此の問題を一義的に解明する樣な制度は、——ルーズヴェルト氏自身をも含めて、——此の世には存在しないと思ふ。併し例へば亞米利加が世界大戰に參加したのは、どう見ても「純然たる自國防衞」とは言へないと言ふことに、先づ疑を差はさむ餘地はない。

逆にルーズヴェルト大統領自身の設定になる調査委員會が、亞米利加の世界大戰參戰の理由を調査し、此の參戰は根本に於てたゞ資本主義的觀點からのみ爲されたものだと言ふ結論に達してゐる。しかもこの事實からは、何等の實際的歸結も惹き出されてゐない狀態である。（註、過去の事實から學ぶ所ある樣な行動をしてゐない。）吾々の望む所はたゞ、少くとも北米合衆國は此の高尙な基礎觀念に從つて將來も亦最後まで行動し、本當に純然たる自國防衞の場合でなければ、如何なる國に對しても戰爭を仕かけぬ樣にと言ふことである。

問題十一　十一、更にルーズヴェルト氏は言ふ、氏のこれを言ふのは決して自己主義や、（自分の）弱味や、恐怖心からではない、これは實際に力を持つた聲である、人類への愛より出でたるものであると。

回答十一　若し此の亞米利加の實際に力ある聲と人類に對する愛が、叫ばるべき時に叫ばれてゐたならば、更に若し此の聲が其の時實際上の價値を有してゐたならば、未曾有の人類大攪亂の基ゐとなつた條約、卽ちヴェルサイユの壓制は阻止し得たに違ひなかつたのだ。

問題十二　十二、ルーズヴェルト氏は更に說いて言ふ、總ての國際問題は（列國）會議を開催して解決すべきであると。

回答十二　理論的には誰でも實際に此の可能性を信ぜざるを得まい、何故ならば、一方に於ては理性が要求の正否を定める場合も多からうし、又他方では步み寄りの絕對必要性も明かにされるからだ。

例へば、すべての理性と論理から言つても、人類の一般高級な正義の基本から考へても、更に神意に適ふ掟に從つても、世界の資財はすべての國民に同等に配分さるべきである。一平方粁に百四十人百五十人或ひは二百人を養はねばならぬ國民もあるのに、ある一國民が同一面積に十五人にすらも達しない密度で濟まして行ける程尨大な生活領域を要求するなどゝ言ふことはあつてはならないのだ。併しどんな事があつても之等幸福な國民が、例へば自分の植民地を失つてまでも、現在困つてゐる國民のため其の生活領域を切詰めようなど言ふことはあり得ない。だから余は會議に依つて此の問題が

解決される樣なことがあれば、實に大したものだと思ふのである。

併し余の懷疑の根本は、會議と言ふもの、效果に對し其の不信を最も判きり表明したのは亞米利加だつたと言ふ點にある。從來の最も大きな會議は言ふまでもなく國際聯盟であつた。亞米利加大統領の意志に基いて出來上つた此の全世界の國民より成る「組合」は會議の机上で人類の問題を解決し得るものと思はれてゐた。

併し此の仕事から一番始めに身を引いた國は亞米利加合衆國なのだ。それも大統領ウィルソン自身が、會議に依つて本當に根本的な國際問題を解決し得るか否かの可能性に非常な疑惑をもつてゐたからなのだ。

ルーズヴェルト氏よ、貴下の御好意には尊敬を拂ふ、併し此の貴下の御意見の前には、殆んど二十年間に涉り、國際聯盟と言ふ世界最大永遠の會議は實際根本的な國際的問題の唯一つすら解決出來なかつたと言ふ嚴然たる事實があるのだ。

獨逸は長年の間ヴェルサイユ平和條約のためウィルソンの約束にも拘らず此の最大の世界會議に列する事が出來なかつた。此の上なき慘憺たる經驗をしたにも拘らずある時代の獨逸政府はやはり、亞米利加合衆國の例に倣ふべきではないと信じ、後に此の會議に參列すべきであると思つてゐた。何年も此の役にも立たぬ聯盟に加入してゐたが、余の時になつて始めて亞米利加の例に倣ひ、此の世界最

大の會議から脫退することに決つたのである。

それ以後此の聯盟の會議で遺憾乍ら――どの問題でもさうだが、――解決出來なかつた問題で、吾が民族に關係あるものは、余が解決したのだ、しかも何れも例外なしに戰爭をせずに解決したのだ。併し之を別としても既に力說した樣に、最近も他に夥多の問題が色々な世界會議に持ち出された。しかも其の一として解決を見たものはない。併し、ルーズヴェルト氏よ、どの問題でも會議で解決出來ると言ふ貴下の考がそも〳〵正しいならば、過去七ケ年至乃八ケ年の間全ての國民は、――亞米利加合衆國をも含めて、――盲人か犯罪人に導かれてゐたとしか言へないのだ。何となれば、彼等は皆、亞米利加合衆國の政治家、それも最大の政治家をも含めて皆、歷史を會議の卓子で形成したことは先づない。何れも自國國民の力を用ひて爲されたもの許りだ。北米の自由は、南北諸州の葛藤が會議で決せられなかつた樣に、やはり會議の結果獲得されたものではない。北亞米利加大陸を次第に征服して行つた時の無數の戰ひに就いてはまあ全然觸れぬことにして置かう。

貴下のお考へは、ルーズヴェルト大統領よ、確かにあらゆる尊敬に價するものである、たゞ貴國の歷史に於ても、又他の諸國の歷史に於てもそれを實證するものがないのである、これを明かにせんために余は如上の事を縷述するのだ。

十三、ルーズヴェルト氏は更に續けて、若し一方の側が（會議の）決定が自分に有利になると言ふこ

回答十三

とを始めから保證されない限り、武器を手から離さぬと言ふならば、それは平和的談合の斡旋に應ずるものとは言へぬと言ふ。

ルーズヴェルト氏よ、國民の運命が最後のドタン場に立至つた時、其の政府なり、其の國民の指導者なりが、ただ單に他の會議列席者の分別なり、洞察なりに依る正しい結論を盲目的に望んで、武器を棄て、或ひは武器を相手に差出してまで、會議に出るとでも貴下は考へて居られるのか。ルーズヴェルト氏よ、世界史上今日迄、效能を述べたてた此の處方箋に從つて行動した國民が唯一つある、さう言ふ政府が唯一つ丈ある。獨逸國だ！

獨逸國民は嘗て亞米利加大統領ウィルソンの嚴かな確約と、聯合國側に依る此の確約の保證を信じて武器を棄てた、そして「丸腰」で會議に望んだ。併し獨逸國民が武器を棄てた其の時から、獨逸は最早會議に招待すらされなかつた、逆にすべての確約に反し、古今未曾有の大破約を蒙つたのだ。

併し亞米利加大統領の嚴かな約束を信じて武器を棄て、武裝解除のまま會議に出席した獨逸國民の代表者は强制條約受理に際しては、四年間に渉り全世界を敵として、自國の自由と獨立のための戰爭中、異常の雄々しさを以て持ちこたへた國民の代表者としては迎へられず、昔（亞米利加印度人の）スー族の酋長に對して爲されたよりもつと汚辱的な扱ひを受けたのだ。

そして會議に於て未曾有の大混亂狀態が處理される代りに、世にも冷酷なる强制條約に依つて前よ

りももつと恐るべき混亂の種が播かれたのだ。

獨逸代表は賤しき民衆に罵倒せられ、石を投げられ、囚人の様に、世界會議ならぬ戰勝國の法廷に引づり出され、其處でピストルを擬せられて古今を通じて最も屈辱的な屈服と掠奪を甘受する様に强ひられたのだ。

ルーズヴェルト氏よ、今日のみならず、將來に於ても獨逸人は決して「丸腰」で會議には望まない、常にそして永久に談判のための獨逸代表者の背後には弓矢八幡かけて全獨逸國民の一致した武力を配置する、未來もさうだ。この配慮をなさんとの余の意志は斷じて搖ぎなきものと申し上げて置く。

問題十四

回答十四

十四、ルーズヴェルト氏は、會議室は裁判所の様なものであるから、相手國は双方とも誠意をもつて入り、實際に双方の正義が容れられると言ふことを出發點とする必要があると信じてゐる。

獨逸代表は自分にとつて法廷を意味する様な會議には今後斷じて出席しない。と言ふのは、一體誰が裁判官になるのだ。會議に於ては原告も裁判官もない、ただ爭ふ者が二人ゐる丈だ。そして其の兩當事國の理性が協調の道に達し得ない場合には、彼等は直接利害關係のない他國の力による判決などに身を任すことはない。

序で乍ら亞米利加合衆國自身が國際聯盟に赴き、多數決に依つて一國の利害を決定出來る様な法廷の犧牲になるのを拒んだのである。

併しルーズヴェルト氏が、どうしたら新しい世界裁判所が出來るか說明して下されば、余は有難く思ふ。誰が裁判官になるか、どう言ふ風にして其の裁判官を見つけるか、又如何なる責任を以て裁判官は取扱ひをするか、就中、裁判官は其の責任を誰に負ふのか。

問題十五　十五、ルーズヴェルト氏の信ずる所では、世界各國が現在及び將來の政策に關し、明白な說明をなせば、世界平和の問題は非常に促進されるであらうと言ふ。

回答十五　ルーズヴェルト氏よ、余はこれまで無數の公開演說に於て之を爲して來た。今日此の獨逸國會に於ても——此の二時間で出來る範圍に於て、——そう言ふ說明を爲したと言へるのだ。併し、余が其の存在と生活に責任を擔つてゐる國民以外のものに、更に逆に余に說明を求める權利を有する國民以外のものに、斯る說明をなすのは御免蒙る。併し余は獨逸政策の目的遂行を、全世界の人々がちやんと聞ける樣に公開して言つてゐるのだ。但し此の說明も、新聞が余の言ふ所を一々歪曲し、疑惑を起さしめ、問題を惹起せしめ、又は嘘だらけの回答でそれを誤魔化したりするのが可能な限り、他の國々にとつては無意味なものである。

問題十六　十六、ルーズヴェルト氏は言ふ。西半球諸國の一として亞米利加合衆國は、歐羅巴で起るべき紛爭に對しては直接には捲き込まれない、だから歐羅巴から隔つてゐる一國の元首としての彼に、獨逸政策に關する說明を與へることは、余もきつと厭はぬに違ひないと。

ではルーズヴェルト氏は、若し世界各國が其の現在の政策に關し率直に說明を與へるならば、世界平和は實際に促進されると本當に信じて居られるのか。

併しルーズヴェルト大統領は他の諸國の政府にも其の政策の說明を爲すやう奬めないで、何故に特に獨逸の元首に丈其の說明を求める積りになつたのか。

勿論余は、そもそも斯う言ふ說明を他國の元首になすなどと言ふのは、少し筋の通らぬことだと思つてゐる。寧ろあの當時のウィルソン大統領の要求に從つて、祕密外交徹廢に關し、全世界に對して斯う言ふ說明が爲されれば一番よかつたのだ。余は今まで常に之を爲す用意はあつたし、——既に述べた如く、——今までも屢々行つて來た。ただ遺憾乍ら獨逸政策の目的と意圖に關する說明は、新聞のお蔭で、所謂數多の民主主義諸國に於ては國民に知らさずに置かれるか、又は歪曲されるかであつた。扨て亞米利加大統領ルーズヴェルト氏が、亞米利加は歐羅巴から離れてゐるから、獨逸又は伊太利に斯る要求をすべき資格があると信ずるならば、然らば、歐羅巴と亞米利加との距離は（孰れから見ても）同じであるから、余の方からも亦同じ權利を以て、亞米利加大統領に對し、亞米利加の外交は何を目的として動いてゐるか、其の政策の根本には如何なる意圖ありや、例へば中南米諸國に對する意圖は何であるかと質問を呈し得る譯である。斯る要求に對しては、ルーズヴェルト氏は勿論モンロー主義を擔ぎ出して、それは亞米利加大陸に對する內政干涉であると言つて之を拒否するだらう。吾々

獨逸人も亦歐羅巴に對しては、特に大獨逸國の範圍と利害に關しては、全然同じ主義をとつてゐるのだ。

序で乍ら勿論余は、北米合衆國の大統領に斯る要求をしてよいとは決して思つてゐない。何故なら恐らく大統領は、斯う言ふ事を以て不手際なへまなやり方と感じられるに違ひないと余は思ふからである。

問題十七　十七、ルーズヴェルト氏は更に斷言する、獨逸の外交目的に關する報知を受取つたら、獨逸政策の行き方に懸念をもち、目下脅威を感じてゐる他の諸國にも通告する積りであると。

回答十七　ルーズヴェルト氏はそもそも如何なる方法で、獨逸政策に脅威を感ずる國と然らざる國を定めたのであるか。或ひはルーズヴェルト氏は、自國內に自分の負擔となるべき仕事が確かに山と積まれてゐるにも拘らず、他國の國民、政府の內面の精神的乃至心理的動きを認識し得る狀態にあるとでも仰つしやるのか。

問題十八　十八、ルーズヴェルト氏は最後に獨逸軍隊が下の獨立諸國の國土又は領域を攻撃しない、又就中侵入しないと言ふ保障を要求してゐる。彼の言ふ問題の諸國とは卽ち、芬蘭、ラトヴィア、リトワニア、エストニア、諾威、瑞典、丁抹、和蘭、白耳義、英吉利、愛蘭、佛蘭西、葡萄牙、西班牙、瑞西、リーヒテンシュタイン、ルクセンブルク、波蘭、洪牙利、羅馬尼、ユーゴースラヴィア、露西亞、勃牙利、

土耳古、イラーク、亞剌比亞、シリア、パレスティナ、埃土及びイラーンである。

先づ余は此處に擧げられた諸國に以下のことを確める勞をとつた、卽ち

第一に彼等は脅威を感じてゐるか否か。

第二にルーズヴェルト氏より余に爲された質問は彼等諸國の發議に依るものか、或ひは少くとも亞米利加と彼等諸國と話合ひの上爲されたものであるか否か。

此れに對する回答はすべて「否」であつた、あるものは斷然たる否定の回答であつた。併し上述の諸國諸國民の中あるものには余は質問を出し得なかつた、と言ふのはある國々は、——例へばシリアの如きは、——目下自己の自由を有して居らず、民主主義諸國の軍隊に占據せられて、其のために權利を剝奪されてゐるからである。

第三に、これを別問題にしても、獨逸國に國境を接してゐる諸國は、ルーズヴェルト氏が其の特異な電報で余に求めたよりもずつと信服せしむるに足る保障、少くとも提案を獨逸側から受取つてゐるのである。

第四に、余が今まで屢々行つた一般的且直接的な聲明も其の價値が疑はれるに於ては、これ以上說明をなした所で、又其の對照がルーズヴェルト氏であるとしても、やはり價値がないことになる。と言ふのは、結局はルーズヴェルト氏が言ふ樣に、斯る聲明其のものの價値が決定的なのではなくて、問

題になる諸國が其の聲明に信を置くか否かと言ふ價値が決定的なのだ。

第五に、更に余はルーズヴェルト氏が此の他にまだ犯してゐる歴史的錯誤を二三指摘せねばならない。例へば彼は愛蘭を擧げて、獨逸が愛蘭を攻撃せぬと言ふ聲明を求めてゐる。最近余は愛蘭の首相ドヴァレラの演説を讀んだが、これに依ればドヴァレラは「可笑しなことには」ルーズヴェルト氏の意見と反對に、愛蘭壓迫の罪を獨逸に歸せずに、愛蘭は常に英國の不斷の侵犯に惱んでゐると言つて英國を非難してゐる。ルーズヴェルト氏が他國の困窮心配に對し如何に洞察が利くとしても、自國を脅威する危險を知ることに於ては、亞米利加合衆國大統領よりも、愛蘭首相の方がやつぱり一段上だと言ふことは考へらるべきことである。

同じくルーズヴェルト氏はパレスティナは目下英軍に占據されてゐるのであつて、獨軍に占領されてゐるのではない、そして英軍のために慘忍なる暴力手段に依つて、其の自由を束縛され、獨立を奪はれ、殘酷な虐待を蒙らされて、猶太の「モグリ」が漁夫の利を占めてゐると言ふ事實を確かに見落して居られる。だから此の國に住む亞剌比亞人は必ずやルーズヴェルト氏に對しては獨逸の侵略を訴へる理由はもつてゐなかつた筈だ。彼等は、自分の自由を愛し、自由を擁護しようとする民族を英國が野蠻な手を用ひて暴壓しようとしてゐる事に對し、絶へず一般輿論に訴へて愁訴してゐるのだ。

之も亦ルーズヴェルト氏の考へに據れば會議に依つて解決されるべき問題かも知れない、卽ち腕力

武力、大量銃殺、村落燒打、家屋爆破などに依らず、公正な裁判官の前で解決すべき問題かも知れない。と言ふのは一點疑ふべくなく確實なことがある、卽ち此の場合英吉利は英國に對する亞剌比亞人の脅威的攻撃を防衞してゐるのではなくて、誰にも招ばれぬ「モグリ込み」のくせに、英に屬してゐない他國の領域に其の權力を押し立てやうとしてゐるのだ。

獨逸から二千粁、或ひは五千粁以上も遠隔の地にある諸國に於て獨逸が軍事行動をなすのは如何に六敷しいか、（先づ不可能である）と言ふことを別問題としてもルーズヴェルト大統領の犯した同じ樣な誤謬はまだまだ指摘することが出來る。

結論としては余は此處に次の樣に言はうと思ふ。

何れにせよ獨逸政府は、各國がルーズヴェルト氏の望む樣な保障を得ることを希望し、又自らも獨逸に對しそれに相當する實のある提案を以て望むならば、此處に擧げられた何れの國に對しても、絶對の相互性と言ふものを前提として此の保障を與へる用意はある。

ルーズヴェルト氏の擧げられた諸國の中多數のものに關しては、此の問題は始めから全く解決してゐると言つて差支へない、何故ならば吾々はそれ等諸國とは元々協定を結んでゐるか、少くとも密接な友好關係にあるからである。

又此等協定の有效期限に關しても、當該各國の希望に從つて喜んで申し合せをする用意も持つてゐ

る。

併し余は此の機會を利して、就中亞米利加合衆國大統領に、結局何より彼の配慮の種となり、又問題となり得る範圍に就いて明確に申し上げて置きたい、それは卽ち亞米利加合衆國自體と亞米利加大陸の他の諸國である。

更に余は此處に嚴かに宣言するが、獨逸國は亞米利加の領土を攻擊又は侵略する意志ありとの主張が擴つてゐるが、何れもそれは野卑な僞瞞か、大嘘かである。序で乍ら斯う言ふ主張は軍事的立場から見れば、ただ馬鹿々々しい空想から生れたとしか思へぬと言ふことを別にして考へても、兎に角大嘘である。

問題十九　十九、以上の點に關聯して、ルーズヴェルト氏は斯く言ふ、卽ち世界各國が軍備と言ふ重荷の下に壓殺されん許りになつてゐるが、之を救ひ得る樣な最も有效にして、最も迅速な（解決）方法を講じることは、最も重大な要素と考へると。

回答十九　ルーズヴェルト氏は、獨逸に關する限り此の問題は既に一度完全に解決されてゐると言ふことを御存知ないかも知れない。一九一九年より一九二三年迄の間に、——之は聯合國委員會が十分に證明してくれるが、——獨逸は完全に武裝を解除したのだ。其の範圍は下の如くである。

陸軍關係で破壞されたもの。

一、大砲及び砲身	五萬九千
二、機關銃	十三萬
三、迫撃砲及砲身	三萬一千
四、歩兵銃及騎兵銃	六百萬七千
五、機關銃銃身	二十四萬三千
六、砲架	二萬八千
七、迫撃砲砲架	四千三百九十
八、砲彈	三千八百七十五萬
九、手榴彈及榴彈	一千六百五十五萬
十、導火管	六千四十萬
十一、小銃拳銃等の彈丸	四億九千百萬
十二、砲彈藥筒	三十三萬五千瓲
十三、藥莢	二萬三千五百十五瓲
十四、火藥	三萬七千六百瓲
十五、彈藥函	七萬九千

十六、電　話　二十一萬二千
十七、火焰放射器　一千七十二
等々。
其の他破壞せられたるもの、橇、移動工廠、高射砲自動車、砲車、鐵兜、瓦斯マスク、前軍需工場の諸機械、銃身。
更に空軍に於て破壞せられたるもの。
一、戰鬪機及爆撃機　一萬五千七百十四
二、飛行機發動機　二萬七千七百五十七
海軍に於て。
主力艦　二十六
海防艦　四
裝甲巡洋艦　四
小型巡洋艦　十九
練習艦及特務艦　二十一
水雷艇　八十三

其の他破壞せられたるものは、各種動力車、毒瓦斯用具、內一部は毒瓦斯防具、燃料及爆破材料、探照燈、照準用具、距離測定具及聽音器、各種光學器械、馬具等々、及飛行機、飛行船格納庫等。

嘗て獨逸に勿體振つて與へられた公約に依れば、——これは又ヴェルサイユ平和條約に於ても確認されたものであるが、——これ等は何れも他の諸國も何等の危險を感せずに同じく軍備を撤廢出來る爲にと言ふ（言はば）「前拂ひ」の樣なものだつた。此處に於ても獨逸は他の總ての場合と同じく、與へられた約束履行を信賴して此の上なく破廉耻にも欺されたのだ。他國も亦同じく軍備撤廢に至る樣にと、——然うすれば、これこそ實際に賢明、正義の要素であり、且其の上約束した義務の遂行に他ならなかつたのだが、——長年に渉つて會議の机上に折衝したが、此の試みは一つ殘らず蹉跌したのは御承知の如くである。

ルーズヴェルト氏よ、余自身此の事を討議すべき提案を實際幾度かなしたのである、そして少くとも一般軍備の最小限度縮小を可能ならしむるべき討究をなさんと試みた。

余は陸軍の最大兵力を二十萬にすること、同じく各種の攻擊用武器の撤廢、爆擊機、瓦斯戰の廢止等を提議した。

併し獨逸が完全に軍備を徹廢してゐるにも拘らず、遺憾乍ら此の提案を各國に徹底さすことは出來

なかつた。

次に余は兵力を三十萬にすることに關し討議すべき提案をなした。結果は同じく否定だつた。それから余は詳細に渉る軍縮案を數多く出した、それも其の度毎に獨逸國會の演壇から、卽ち全世界を前にして提案したのだ。

併しこの事に就いて話し合つて見ようなどと考へるものすら一人もなかつた。それ所か各國はそれ自體既に尨大な現存軍備を更に亦强化し始めた。

そこで遂に一九三四年、三十萬兵力に關する根本的提案が、最後決定的に拒否された時、はじめて余は獨逸軍備の、それも今度は徹底的の再軍備の命令を出したのだ。

と言つても、ルーズヴェルト氏よ、貴下が自ら參加しようと言ふ軍縮問題の討議には余は決して邪魔立てはしたくない。ただ余の願ふ所は、先づ余及び獨逸國のみに訴へず、他の諸國にも訴へて頂き度いと言ふことだ。余は今まで數多く現實的な經驗を得て來てゐるのだ。より良い實際的行爲を見せて貰はぬ限り、余はどうしても釋然たり得ぬのである。

問題二十

二十、ルーズヴェルト氏は最後に確言する、氏は國際交易の諸方策開發の實際的方法に自らも參加する用意あり、かくして世界の各國は同一の權利を以て世界市場で賣買し、且つ原料及び平和的經濟生活に依る生產品獲得を確實ならしむるを目的としようと言ふ。

ルーズヴェルト氏よ、斯う言ふ問題は（余に電報を打つたりして）理論的に兎や角言ふ問題ではなくて、國際經濟の本當の障害を除くと言ふことを實際の行爲に依つて示すことが大切なのだと余は信じてゐる。併し其の最惡の障害は各個の國それ自體の中に存してゐる。何れにせよ、今日までの經驗から之を見れば、最大の世界經濟會議が失敗に終つたのも、一に個々の國家が其の國內經濟をちやんとして行き得なかつたことにあるのだ。或ひは各國が通貨マニプレーションに依つて國際的資本市場に不安定を釀し、特に通貨の價値を絕えず變動させた爲なのだ。

同じくある種の國が、何かイデオロギー的の理由から他國に對し其の國の商品に對して、猛烈なボイコット煽動を行つて、結局それ等を事實上世界市場から占め出しを喰はすと言ふ樣な事が出來るのは誠に世界經濟關係にとつて耐へ難き重壓なのだ。余思ふに、ルーズヴェルト氏よ、貴下が若し、貴下の大きな影響力を以て先づ亞米利加合衆國に於て本當の自由交易が出來る樣に其の障害を除去するならば、非常な功績になると信ずる。

と言ふのは、余は元來斯う信じてゐる。若し各國の指導者にして自國內の生產を調整する事も出來ず、これ程までも各國相互間の經濟關係を害してゐるイデオロギー的ボイコットを除去することすら出來ないならば、國際的協調に依つて經濟關係改善に實際に實を結ばせやうとしても、其の見込は殆んどないのだと。それが出來てこそ始めて世界市場で同等の權利を以て賣買することが、全てのもの

に確保されるのだ。

序で乍ら此處に獨逸國民は極く具體的な要求をなしたと言へるのだ。大統領よ、若し貴下が嘗ての大統領ウィルソン氏の後繼者の一人として、遂に（例の）約束――これに依つて獨逸は嘗て其の武器を棄てて、所謂戰勝國に其の身を委ねたのだが、――今や遂に其の約束が果される樣に乘出してくれるならば、余にとつて誠に喜ばしいことである。と言つて此の際余は、所謂賠償金の形で獨逸に押付けられた莫大な數十億馬克のことを考へてゐるのではない、寧ろ先づ獨逸から奪取された植民地返還を考へてゐるのである。

何故ならば、獨逸は歐羅巴の內外に約三百萬平方粁の土地を失つた。しかも獨逸の全植民地は他國の植民地と異り戰爭に依つて獲得したものではない、ただ協定又は代償支拂に依るものなのだ。ウィルソン大統領は、獨逸の植民地要求は他の諸國のそれと同じく、同じく公正に檢討さるべきものであると保證を與へたのだ。然るにさうはしないで、既に最大の植民地を領有してゐる國民に獨逸植民地は與へられ、獨逸國民は非常な不安――特に今日、そして未來になれば益々現實に逼迫して來る不安――に曝されたのである。

若し今フランクリン・ルーズヴェルト大統領がウッドロー・ウィルソン大統領の約束を果すならば、それは實に貴ぶべき行爲である。何より之は世界の道義的地固め、延いては其の經濟作興に現實的に貢獻

する所となるであらう。

問題二十一　二十一、結論としてルーズヴェルト氏はかう言ふ。現下は總て大國の政府の首長が人類の運命に責任あるのだ。彼等は來らんとする戰爭の混沌から國民を守るために、國民の聲をきかねばならぬ。又それに對しては余も亦責任があるのだと。

回答二十一　ルーズヴェルト大統領よ！

貴國の大なる國土、貴國の莫大なる富を以てすれば、貴下が全世界の歷史（形成）及び凡ゆる國民等の運命に對し責任を感ぜられるのは、余には實によく解る。余は、ルーズヴェルト大統領よ！　もつとずつとつゝましやかな、さゝやかな土地に住んでゐるのだ。貴下は九百五十萬平方粁に一億三千五百萬の人口しか持つてゐない。貴下は莫大な富、凡ゆる資源を藏した土地を領有して居られる、五億の人口を養ひ、彼等にあらゆる必需品を供給するに足るに十分な位土地は豐饒である。

余は嘗て、他の諸國の保證を過信したために、更に又民主々義的國家統治と言ふ自國の惡政府のために完全な崩壞に瀕した國家を引受けた。此の國に於ては一平方粁に、亞米利加の十五人と異り、百四十人の人が住居してゐる。吾が國の土地は貴國の肥沃さに較ぶべくもない。自然が無盡藏に貴國の土地に與へた資源は吾國には缺けてゐる。長い平和時に獨逸が貯蓄した何十億の金及爲替は强奪せられた。吾等の植民地は失はれた。一九三三年には吾國に於ける失業者は七百萬、繰業勞働者數百萬、

貧農同じく數百萬、更に產業は荒廢し、商業は疲弊し、實に之混沌其のものであつた。

此の時以來、ルーズヴェルト大統領よ、爲し得た仕事は唯一つ丈である。余は世界の運命に對して責任を感じることは出來ない、何故なれば此の世界は吾が國民の憐むべき運命に對して何等關心をもつて呉れなかつたからである。余は余を神から召されたものと見、ただ吾が國民に仕へ、それを其の恐ろしき窮乏から救濟するを任務と考へる。故に余は去んぬる六ケ年半の間、他の全世界に見棄てられた事實に直面して、吾が國民の自己の力を覺醒し、其の力を最高度に發揮させ、以て吾等が共同社會の救濟に役立てやうと言ふ唯一つの考のみを日夜頭に描いて來たのだ。

余は獨逸の混沌狀態を征服した、秩序を再建した、國民經濟の凡ゆる部門に生產を莫大增加せしめた、吾人に缺けてゐる數多の資源のために、非常な努力を以て代用品を作つた、新發明のための道を開拓した、交通を發達せしめ、巨大な新道路を建設した。余は運河を工築せしめ、巨大な新工場を設置し、且つ社會的共存體の發展を目指して、吾が國民の敎養、文化に力を盡した。

余は、吾人が皆深く悲しんでゐた七百萬の失業者を殘らず再び有用なる生產業に就かせ、非常に困難ではあつたが獨逸農民を故鄕の土に腰を落付かせ、且つ彼等のために、其の「土」を保全し、獨逸商業を再び隆興せしめ、交通を極度に發達しむるに成功した。

他の諸國よりの脅威に對する豫防策として、余は獨逸國民を政治的に團結せしめたのみならず、軍

事的に見ても軍備を整へた。余は更に、嘗て國民及び人類から求められた中で、最も下劣なる暴壓を四百四十八ケ條にまとめ上げた條約を一頁一頁と破壞しようと試みた。

余は一九一九年に掠奪せられた地方を再び獨逸國に復歸せしめた。余は吾等から奪ひ取られて不幸の底に沈む幾百萬の獨逸人を再び其の祖國に連れ戻した。余は千年の歷史を有する獨逸生活領域の統一を再び建設した。そして、ルーズヴェルト大統領よ！　余は之等を何れも、血を流すことなく、吾が國民にも、他の國民にも戰爭の慘禍を加へることなしに遂行するやう之れ力めた。余は、大統領よ！二十一年前の無名の一勞働者、一兵士として、余自らの力を以て之を爲したのだ、だから歷史に於て、個人から公平且正當に要求され得る限りの最大のことを爲した人々と同列に列することを要求しても關はぬ譯だ。

大統領よ、之に較べれば貴下にとつては仕事はずつと易いのだ。貴下は、余が首相となつた一九三三年に亞米利加合衆國大統領となられた。そして先づ世界で最も大きく、最も富んだ一國の元首となられた。貴下は幸にも、貴國に於ては一平方粁に十五人足らずを養へばよい。貴下には此の世の資源が無盡藏に自由になる。貴下は其の國土の廣大と、土地の肥沃なため、亞米利加人各自に、獨逸の爲し得る十倍位も生活財を確保してやることが出來る。兎に角自然は之を貴下に許してゐるのだ。

貴國の人口は大獨逸國の人口よりも、其の三分の一足らず丈多いとしても、貴下には（獨逸の）十

0310
24

五倍以上の生活域が用立てられてゐる。貴國の狀態はすべてが大規模なので、きつと貴下は世界的の（大きな）問題に頭を惱ましたりする時間や暇を見出し得るのだらう。だから貴下にとつては、彼方此方干渉したり介入したりして役に立つと考へらる程此の世界もきつと小さいものに思はれるのだらう。

此の意味に於て貴下の配慮と努力とは、余のものよりももつと大きな廣大な範圍に渉ることが出來る。何故ならば、ルーズヴェルト大統領よ、余の世界は、神が余に定め給ひ、其のために余が働くことを義務づけられた世界なのだ。余の世界は地域的にはずつと狹隘である。それが包含してゐるのは吾が民族丈である。但し余はこの土地に依つて、吾等すべてが心に願ふ事、卽ち全人類共存體の正義、福祉、發展及び平和のために何より一番貢獻しようと信じてゐるのである。（完）

寄贈
衆議院
15.2.29
圖書館